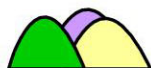


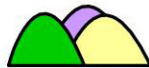
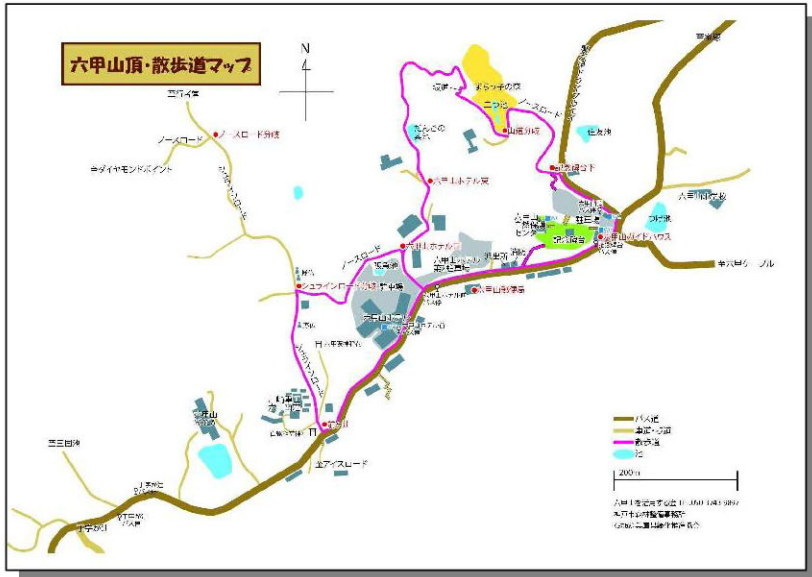


六甲山物語4

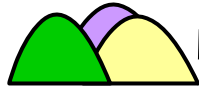
六甲山をさらに知る 12話



2015年発行
六甲山を活用する会



この冊子は大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ
環境保護基金)などの助成金を受けて制作しました



「六甲山物語4」発行に寄せて

神戸のシンボル六甲山の魅力や楽しみがいっぱいだった「六甲山物語」の第4弾が発行されます。心からお喜びします。今から100年以上前、過度な伐採や山火事などにより、禿げ山と言われるほど荒廃していた六甲山。土砂災害の防止や水源涵養などのため、もう一度緑豊かな六甲山を取り戻そうと植林がスターとしたのは、明治35年でした。以来、一世紀以上にわたり、六甲山を愛する多くの人々が力を合わせ、主体的に緑化運動に取り組んだ結果、多様な動植物がいきいきと生息する緑豊かな今日の姿を取り戻したのです。



兵庫県知事

井戸敏三

市民や事業者などあらゆる主体が連携し、地域の特徴を活かしてよりよい環境づくりに向けて協働することは、環境の保全と創造の取り組みの基盤です。

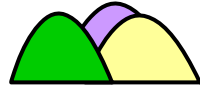
神戸地域の将来像を描いた「神戸地域ビジョン」では、身近な憩いの場であり、自然環境や生態系を守る要衝である六甲山を自然との共生のシンボルとして位置づけ、市民の参画と協働で自然との共生を育む活動を推進しています。

その中心的役割を担う「六甲山を活用する会」の皆さんは、平成14年の設立以来、清掃活動や動植物の生態調査、体験型環境学習プログラムの実施など、意欲的な活動を展開されています。

とりわけ、毎月開催されている「六甲山魅力再発見セミナー」では、多様な動植物の暮らしや自然体験活動、歴史、文化など幅広いテーマで、多くの方々に六甲山の魅力を伝えてこられました。

今回発行される「六甲山物語4」は、同会が平成24年から26年の3年間に開催してきた「六甲山魅力再発見セミナー」の内容を取りまとめたものです。先の物語1～3と併せ、六甲山を深く知るための格好のテキストとなるでしょう。

本書が多くの方々に親しまれ、六甲山が、人と自然、人と人との豊かな交流が広がる場として、一層生かされていくことを願っています。



ご挨拶

このたび、『六甲山物語4～六甲山をさらに知る12話』を発刊することになりました。既刊の『六甲山物語1』／平成19年、『六甲山物語2』／平成21年、『六甲山物語3』／平成24年に続く、シリーズ第4号になります。これら4冊で、六甲山を多様な視点から理解できる120の話題を提供できます。六甲山について幅広い知識や情報を得る案内書として、多くの皆様にさらにご活用いただけるものと喜んでいきます。

私ども「六甲山を活用する会」は、「六甲山魅力再発見市民セミナー」を毎月第3土曜日に9年間108回開催しました。平成24年度からは4月・6月・8月・10月の第3土曜日、六甲山上での自然体験会と組み合わせて年4回3年間開催し、延べ346名が参加されました。平成15年以来12年間で120回、延べ参加者は3,206名(1回平均約27名)になります。六甲山上で地域を研究し交流する新たな生活文化が根づいたことを実感します。今後も、「市民セミナー」を開催して活動のエッセンスを持続・発展したいと考えます。

この『六甲山物語4』は、平成24年度の第109回から平成26年度の第120回まで3年間12回にわたる、市民セミナー報告書を再編集したものです。『六甲山物語1・2・3』で設定した6つのジャンルを踏まえて、「六甲山を見渡す」、「六甲山の植物を知る」、「六甲山のくらし・学び」という3つのジャンルに編成しました。巻末には343項目の用語の索引も掲載しました。

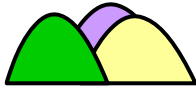
私どもは、上記のような「六甲山を知る情報発信」を軸にして、六甲山記念碑台周辺の環境整備活動にも取り組んでいます。密生するアセビを伐採する調査で六甲山の里山林を復活して「まちっ子の森」として景観整備しています。隣接する近畿自然歩道を「六甲山頂・森と歴史の散歩道」に保全・整備し、地域の魅力を生かす運営に注力しています。『六甲山物語』から、地域の自然環境や歴史・生活文化に触れた報告を抜粋して、ガイド用のハンドブックに再編集して「散歩」を豊かに味わえる知識や情報も提供しています。

大都市の市民が手づくりで「地域研究」を続けて、六甲山の「郷土誌」と呼べるものを蓄積できました。これらの実績や体得したノウハウを、全国で「地域」に関心を注ぐ人たちにも提供できるものだと考えています。

これからも六甲山に関わる生活文化の創造につながる貢献を目指します。多くの皆さんにご理解、ご支援・ご協力をいただき、市民の担う地域活動を発展したいと念願しています。

2015年2月

六甲山を活用する会
代表幹事 堂馬 英二



六甲山物語4 目次

「六甲山物語4」発行に寄せて:兵庫県知事 井戸 敏三 いど としぞう	P 1
ご挨拶:六甲山を活用する会 代表幹事 堂馬 英二 どうま えいじ	P 2
目次	P 3
1. 六甲山を見渡す～自然環境と都市景観～	P 4
①六甲山における都市化の進行と土砂災害	第 111 回 沖村 孝 おきむら たかし P 5～7
②国立公園六甲山地区の特色とこれから	第 115 回 戸田 耿介 とだ こうすけ P 8～10
③ハテナ?から誕生した六甲連山バイブル	第 117 回 東 充 あずま みつる P 11～13
④六甲山パートナーシップの実現に向けて	第 120 回 松岡 達郎 まつおか たつお P 14～16
2. 六甲山の生きものを知る～六甲山の生物～	P 17
①早春の六甲山の森	第 109 回 小館 誓治 こだて せいじ P 18～20
②里山和楽会の活動～地域とともに	第 112 回 道満 俊徳 どうまん としのり P 21～23
③春の六甲で木の花を見てみよう	第 113 回 高橋 晃 たかはし あきら P 24～26
④六甲山上でキノコを調べる	第 118 回 奥田 彩子 おくだ あやこ P 27～29
3. 六甲山のくらし・学び～生活文化と環境学習～	P 30
①ひとの集う場所(ところ) 六甲山	第 110 回 中村 圭志 なかむら けいし P 31～33
②ボーイスカウトの歴史	第 114 回 長 八州翁 おさ やすお P 34～36
③六甲山があってよかったね	第 116 回 加藤 智二 かとう ともじ P 37～39
④自然体験活動の価値と可能性を考えよう!	第 119 回 岩木 啓子 いわき けいこ P 40～42
索引	P 43～45
H24～26市民セミナー・プログラム	P 46
編集後記:『六甲山物語4』編集委員会	P 47

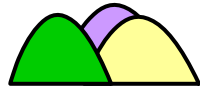
2014年8月の11号台風の被害で、自然保護センター前の情景が変わりました。



台風後、ケヤキが伐採された
六甲山自然保護センター
2014年10月8日撮影



自然保護センター前のケヤキ
(左手、記念植樹後30年)
2012年11月6日撮影



1. 六甲山を見渡す

～自然環境と都市環境～

①六甲山における都市化の進行と土砂災害 P 5～7



沖村 孝 おきむら たかし
財団法人建設工学研究所
常務理事
第111回市民セミナー講演
2012年8月18日

③ハテナ?から誕生した六甲連山バイブル P 11～13



東 充 あずま みつる
神戸アーカイブ写真館
代表
第117回市民セミナー講演
2014年4月19日

②国立公園六甲山地区の特色とこれから P 8～10



戸田 耿介 とだ こうすけ
子ども環境活動支援協会
監事
第115回市民セミナー講演
2013年8月17日

④六甲山パートナーシップの実現に向けて P 14～16



松岡 達郎 まつおか たつお
神戸市 六甲山整備室
室長
第120回市民セミナー講演
2014年10月18日

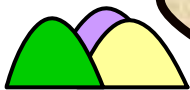
「六甲山物語4」の始まりは「1. 六甲山を見渡す」です。ここには、六甲山の地域特性を踏まえて、どんな関わりを考えるかという話題を提供しています。

土砂災害の研究で第一人者である沖村 孝さんは、「六甲山における都市化の進行と土砂災害」というテーマで、大都市神戸の発展と風化花崗岩の六甲山の土砂災害について語っていただきました。都市生活者としての心構えも触発されます。

戸田 耿介さんは、瀬戸内海国立公園の飛び地として六甲山地区が編入されたところに活躍されています。「国立公園六甲山地区の特色とこれから」をテーマに、国立公園編入の経緯を紹介していただきました。国立公園としての原点を辿り、これからの六甲山への関わりを考えました。

神戸アーカイブ写真館を運営されている東 充さんは、六甲山について大変ユニークな足跡を刻まれた「ハテナ?から誕生した六甲連山バイブル」をテーマにお話いただきました。全山縦走路につながる登山道をはじめ、さまざまな事物を踏査した『六甲山連山バイブル』全5冊を出版されました。写真や地図など膨大な資料を編集されていますが、足で調べてデータを整理するノウハウも開陳されました。

そして、神戸市・六甲山整備室長の松岡 達郎さんには、神戸市の出前トークとして「六甲山パートナーシップの実現に向けて」をテーマにお話いただきました。現在、「六甲山森林整備戦略」を立案して、実施段階に入っています。六甲山は植林が主流の緑化100年を経て、緑に覆われるようになりました。これからは「都市山」としての保全・整備のあり方を長期構想されています。



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.111
六甲山における都市化の進行と土砂災害 / 沖村 孝
2012年8月発行



布引水源地

第111回テーマ 六甲山における都市化の進行と土砂災害

講演

- 私と六甲山との関わり
- 六甲山の3大水害
- これからの土砂災害に備えるための3つの柱



講師：おきむら たかし 沖村 孝さん プロフィール

1944年生まれ、67歳。豊岡市出身。1969年神戸大学大学院工学研究科卒業、1971年より神戸大学工学部、2008年神戸大学退職(名誉教授)、財団法人建設工学研究所・常務理事として現在に至る。専門は防災工学・地盤工学、理学博士(京都大学)、研究テーマは「豪雨時の山くずれの予知・予測」など。土木領域では六甲山研究の第一人者。

実施日：平成24年8月18日(土)
午前13時00分～午後3時45分
場所：六甲山自然保護センター

午前中は40人で環境整備活動

午前10時から12時まで、自然体験会&環境整備活動を実施しました。イベント清掃ひかびか隊20名、六甲遊悠10名が大挙参加し、40名という大人数で、第3期アセビ伐採調査の標準5区画のアセビ約100本の伐採をほぼ終えました。



アセビを伐採して一服

暑い日中の作業を済ませて午後の市民セミナーにも出席され、セミナー参加者は54名の大勢で賑わいました。

大学院生時代から六甲山の防災を研究

六甲山の防災で著名な沖村さんに、財団法人神戸都市問題研究所が主催した「都市資源としての六甲山」研究会でお会いして、市民セミナーにご出講をお願いしました。

神戸大学大学院1年生の時、1967年(昭和42年)の大水害に遭遇された直後から現地調査をされて、六甲山の崩壊と関わる研究生活を50年間続けておられます。

最終的な研究目標は「人の命を亡くさない工夫をする」で、「人の命が亡くなるのを何とか防ぎたい」と情熱を傾けておられます。市民セミナーでは「避難行動」の自助努力を訴えられ、出席者は共感ひとしおでした。

六甲山の人間活動と防災の関係がわかった

市民セミナーの冒頭、ブロックダイアグラムや扇状地の地図などで、六甲山を視覚でとらえる説明をされました。六甲山の成り立ちや地質、気候などの特徴を踏まえて、「六甲山は土砂災害が起こりやすい」と強調されました。

続いて、人間行動の歴史を紐解かれました。豪雨による土砂の浸食と、木材の伐採や石材、松根等の採取というヒューマンインパクトが六甲山を禿げ山にした原因であると述べられました。

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

そして、神戸港開港以来の急激な都市化の進行です。増える人口、住宅地の開発は甚だしいものです。水道の敷設、植林活動、そして砂防事業が進みます。

そんな過程で三大水害が発生しました。「砂防ダム」をはじめ、防災工事などのハードウェアの対策、沢山の法律で行為の規制が行われて、防災の活動が進展していきます。ご自分の体験を元に具体的に説明されるので、参加者は大きく頷いていました。終盤は防災から減災への展開を述べられ、避難勧告というソフトウェア対策に即した「避難行動」をヒューマンウェアとして説かれました。

多くのスライドを用意されての明快なお話で、都市防災の概要を理解することができました。

六甲山の防災が身近になった

六甲山麓の市民は六甲山と共生しています。六甲山の自然環境の災害から都市生活を守る、防災の活動を専門家の視点から体系的にお話しいただきました。出席された皆さんが熱心に質問し発言されました。自然の脅威と背中合わせで、安心な生活を楽しめていることを実感しました。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 松井 照雄 さん

先生のお話で、「たとえ災害が起きたとしても、亡くなる人を一人も出さないことが私の目指す防災である」とのお言葉が一番心に響きました。



今の大人達に危険の察知を呼びかけても、その効果は期待出来ない。次世代の子供達に学校教育として繰り返し、繰り返し防災訓練を実施し、危険性を察知する心を持たせることが大切だと感じました。

【助成金をいただいている機関】

大阪コミュニティファンド(東洋ゴムグループ環境保護基金)、花王・みんなの森づくり助成、コープこうべ環境保護基金、兵庫県緑化推進協議会、自然保護ボランティアファンド



第111回テーマ：六甲山の都市化の進行と土砂災害



第111回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00~13:10
2. 講演：13:10~14:45
3. 意見交換：15:00~15:45

- 私と六甲山との関わり
- 六甲山の3大水害
- これからの土砂災害に備えるための3つの柱



会場は満員の大盛況

講演の挨拶（沖村 孝さん）

皆様の格好を見て、舞台衣装を間違ったと思いました。仕事場ですから、六甲山に登るための衣装は一杯持っています。今日の目的がお話することなので、仕事着よりこの方が相応しいと思いました。



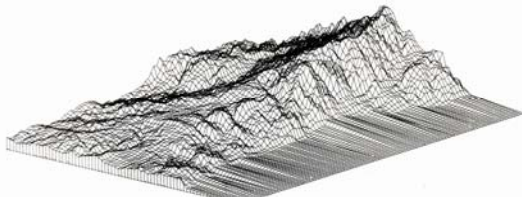
沖村さん

講演内容

1. 私と六甲山との関わり

■初めての六甲山ブロックダイヤグラム

20年以上前、1万分の1の地形図を200mメッシュで切って標高を読んで作った。西から六甲を眺めた一辺が200mの図で、須磨断層、諏訪山断層、五助断層、大月断層が走っているのが分かる。



六甲山のブロックダイヤグラム

■六甲山の性格と土砂災害

六甲山は北東～南西約30km、北西～南東約7kmの規模で、150～200万年前の第四紀から隆起活動が始まった。地質は花崗岩で風化が激しく砂質の土砂となる。気候はモンスーン地帯で豪雨が多発する。神戸で年間1200mm位の雨が降り、土砂災害の原因となる。一方で地震も起きるのが六甲山だ。

■六甲山と人間活動・都市化と開発

7世紀以前は摩耶山、再度山が山岳修行の聖地で、9世紀頃に山岳寺院の天上寺、大龍寺が建立された。10～16世紀は戦国・戦乱時代で、城砦が各地で建設され石材や木材が乱伐された。大阪城築城の時に豊臣秀吉が「勝手足るべし」と、薪や樹木を採る許可を与えた。17～18世紀に入ると、牛の飼料、屋根に葺く萱、燃料としての薪や松根の乱伐、山火事の頻発による荒廃が進み、結果として土砂流出が激しくなった。

1868年に神戸港が開港し居留地が置かれた当時、人口は2万数千人で、22年後の89年には約6倍の13万4千人になった。飲料水は扇状地伏流水



施工中の布引水源

の井戸水で、生活水の悪化で、伝染病やコレラが発生した。93年に公営水道の敷設、水源の布引貯水池が決定した。

■砂防事業の始まりと進展

1893年に土砂災害があった。禿げ山を緑にする、水源地に緑が必要だという2つの理由で砂防事業が始まった。95年に兵庫県が逆瀬川の流域で砂防事業を始めた。日本全体でも治山治水を進めるため、96年に河川法、97年森林法、砂防法という3つの法律ができた。

布引貯水池の水源流域の再度山も荒れており、砂防と水源確保のための植林が必要になり、1900年から本格的に六甲山の植林が始まった。03年に1,100haが砂防指定地に認定され、13ヵ年計画が着手された。37～38年に、共有林1,520haが神戸市に寄贈されて、土砂災害対策としての植林が進行した。

人間の手で緑の回復が行われ、六甲山は緑が回復するようになった。回復したら山火事が頻発した。観光レクリエーションとして、摩耶ケーブル・裏六甲ドライブウェイ・六甲ケーブルなどの開発も進んだ。

2. 六甲山の3大水害

■1938年（昭和13年）の集中豪雨

昭和13年の7月3日から5日にかけて、総雨量として300mm以上が六甲山全体に降った。ようやく緑が回復しつつあり、同時にドライブウェイ等の開発も進行している時期であった。全体の総雨量200mm以上、雨の降り方としては後方集中型で、前半は10mmのしとしと雨、後半に強い雨がどっと降る。こういう場合には山崩れが起きる。昭和13年の場合、30mmの雨が3時間以上続いた。

■1961年（昭和36年）の豪雨被害

昭和36年6月に災害が発生した。明治18年～大正12年は、海岸地のところでポツリポツリ住宅が点在していたが、海岸地の全体、特に三宮から元町、灘は大きく開発が進んだ。大正12年～昭和10年になると、灘から東灘にかけて開発が進んだ。昭和10年～20年、終戦直後までは山麓で開発が行われた。24年～36年の高度経済成長の頃、山麓でどんどん宅地造成が行われた。こういう時に雨が降り、宅地や造成地が壊れた。

■1967年（昭和42年）の豪雨被害

昭和42年7月9日、私は神戸大大学院1年生だった。日曜日のゼミは雨で中止され、10日に大学に行き、現地調査を始めることになり、そこから六甲山の崩壊と関わる研究生活に入った。修士論文は自然災害と豪雨による問題となり、六甲山との付き合いが始まった。

3. 土砂災害に備えるための3つの柱

■主としてハードウェア対策

都市災害を止めるにはハード対策が圧倒的に大きい。六甲砂防事務所、兵庫県砂防課、或いは神戸市で砂防対策が行われている。これプラス、行為の規制といういろいろな法律がある。六甲山を守るため、乱開発を防ぐための許可基準で、厳しい法律ができあがった。

国立公園法、特に特別保護地域これは厳しい。都市計画法、風致地区、それから都市緑地法、近郊緑地法、特別保全緑地法。砂防法、森林法、急傾斜法、宅地等規制法。いろいろな法律が全部被さっており、乱開発、勝手な工事は許しませんという形になっている。

防災工事によって安全を保っていかうというのが、二番目の考え方で、様々な工事の種類がある。

【崖崩れの対策】家が壊れるのを防ぐ、コンクリートの擁壁、ストンガード。道路にはコンクリート枠工がある。30年代の初めは崖に対してモルタル吹付で、石ころが落ちない様にした。



コンクリート枠工

【砂防ダム】土砂を止めて土石流災害を減らす。あまりがっちり止めると細かい土砂まで止めるので、六甲砂防では近年、スリット型の堰堤を多く採用している。

昭和32年住吉川に、高さ30m、長さ78mの巨大な五助堰堤が完成した。昭和42年7月9日の災害で、たった一晩で土砂が満杯になった。



土砂で埋まった五助堰堤（ダム）

【砂防ダムの効果】昭和13年当時は砂防ダムがあまりなく、市街地に83.5%の土砂が流れ、山の中には16.5%の土砂が溜まった。市街地で亡くなる人が圧倒的に多かった。42年時には77.5%が山の中で砂防ダムに留められ、市街地に流れたのは22.5%だった。市街地で亡くなる人は殆どなかった。

砂防ダムは、昭和42年の災害で非常に大きな効果があった。

■ソフトウェア対策の登場

自然災害の減災の例として、1995年の阪神淡路大震災以降に六甲山で採られたグリーンベルトがある。これは都市の防災空間緩衝緑地、市街地での安全確保になる。レクリエーションの場にもなる。六甲の南側で盛んにいろいろな工事が行われている。

そして避難のための防災ソフトウェアで、雨の降っている最中に「皆さん逃げて下さい」という情報の提供手段だ。県から土砂災害警戒情報が出ると、市は避難勧告とか避難指示を発信する。

■3番目はヒューマンウェア対策

斜面土砂災害対策は、ハードウェア（構造物の施工：公助）とソフトウェア（行為の規制、避難情報の提供：公助）の両輪で実施されている。

3番目はヒューマンウェア（避難行動：自助と共助）である。避難勧告を聞いたけれども避難しない人に、どういう情報を与えてどんな刺激を与えれば、避難しようというモチベーションなるのかが、私自身の大きな研究テーマだ。今盛んに言っているのは、避難訓練だ。

まとめ（沖村さん）

災害時の経験を頭で理解することと体で理解する、普通の備えが必要になります。何とか避難するモチベーションを高めることを皆さんと一緒にやって行きたい。

質疑応答

■ダムに溜まった砂をどうして掻き出すの？

原則として掻き出さない。勾配が緩くなって途中で土砂が止まる。斜面の下を固めることになり、右岸左岸の崩壊を防げる。

■阪神大震災で考え方をええられたのは？

加納町3丁目の交差点を越えた途端に被害が大きくなり、地盤特性が影響していると考えた。そして、地盤分布図を作ることに専念した。また、復興計画の中に、防災に加えて「減災」も提言した。

事務局より

六甲山の成り立ちや都市化の歴史の変遷が理解でき、災害発生や防災活動の関係が鮮明になった。参加者は、都市災害を被った六甲山麓の市民ならではの真剣さであった。沖村さんが強調された、避難行動の習慣づけを心がけていきたい。

◆参考・配布資料など

・パワーポイント：「六甲山の都市化の進行と土砂災害」

◆参加者の声

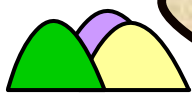
- ・防災という難しい内容を分かり易く話していただいた。
- ・昭和42年の大水害が研究の原点とのことに共感。
- ・ヒューマンウェアの自助、避難行動を認識できた。
- ・砂防ダムが土砂流出対策の施策だと理解できた。

沖村 孝：おきむら たかし
財団法人建設工学研究所・常務理事
〒657-0011
神戸市灘区鶴甲 1-3-10
財団法人建設工学研究所
電話：078-851-1850 FAX：078-851-5454

◆参加者：57名（50音順・敬称略）

赤井 良子	赤司 宏子	池田 勝	天野征一郎
安藤 美明	泉 美代子	伊谷 幸子	伊谷 正弘
市井 浩	岩浅 敬由	和夫 大上	政雄
大津 陸郎	大橋 邦雄	正美 岡谷	恒雄
沖村 孝	兼貞 力	神野 忠広	久保 洋明
坂本 明子	笹野 幸子	柴川 伸成	柴田 昭彦
嶋田 稔子	邵 欣欣	鈴木 紀生	鈴木 和子
武内 宏	田邊 征三	竹野 智明	辻 和雄
東郷 賢治	徳見 健一	堂馬 英二	南部 哲夫
西尾 司	西川 桂子	橋村 洋子	平野 友代
平野 正幸	広瀬 範義	藤田 修作	堀田 信二
前川 功	前田 秀二	前田 武廣	真崎 光
松井 照雄	松岡 達郎	山下 博邦	村上 定広
柳田千恵子	森田 香代	（54名）	

※午前の自然体験会：西山 紀代香・武・弘（3名）



第115回テーマ

国立公園六甲山地区の特色とこれから

第1部：講演

- 国立公園指定の背景と経緯
- 自然公園としての特色
- 六甲山系の環境保全および活用の在り方について

第2部：座談会

実施日：平成25年8月17日（土）
午前10時～午後3時30分
場所：六甲山自然保護センター、
まちっ子の森



講師：戸田 耿介さん プロフィール
1943年（昭和18）生まれ、69歳、三木市在住。昭和42年東京農工大学農学部林学科卒業、同年厚生省（現環境省）国立公園局入省。昭和46年～兵庫県生活部自然課、観光課勤務。平成4年～兵庫県立人と自然の博物館主任研究員。平成14年京都市みやこエコロジーセンター事業長、平成15年～甲南大学、神戸国際大学非常勤講師ほか。自然環境系のシンポジウムや講演に多数参加。



30年前に植樹した自然保護センター前のケヤキ

48名が午前中の活動に参加

朝の記念碑台は快晴で風が強く24℃と爽やかでした。27名が自然歩道の整備、21名が「散歩道」のモニターを行いました。午後の市民セミナーは52名で大賑わいでした。

30年ぶりに六甲山での活動を見直した戸田さん

今年の2月11日、県立人と自然の博物館で10数年ぶりに戸田 耿介さんにお会いして、講演をお願いしました。30年前には市民セミナーの拠点としている県立自然保護センターの建設など、六甲山の整備や活用で尽力されています。せっかくなので、六甲山の国立公園編入の経緯や特色を踏まえて今後の課題も検討することにし、戸田さんは眠っている資料の掘り起こしをされました。

また、神戸市・六甲山整備室長の松岡 達郎氏、神戸自然保護官事務所長の関 貴史氏にご参画いただき、座談会という試みも実施できました。



第2部は座談会

六甲山は利用を重視する特異な国立公園

第1部では、昭和9年に日本最初の国立公園のひとつとして瀬戸内海が指定され、昭和31年に六甲地域が追加指定されたことが説明されました。この編入については、田村 剛博士の「六甲山観光計画」、当時の宮崎 辰雄市長の「国立公園に指定されて規制が多くなった」と反省する回顧録が紹介されました。六甲山が編入された実情がうかがえました。

続いて、国立公園のクイズをもとに、国立公園の公園計画、土地利用や植生変遷、六甲山の特色を解説されました。六甲山の活用では、「健康づくり」への関心が紹介されました。

第2部の冒頭で、松岡さんが「六甲山森林整備戦略」を要約して解説されました。六甲山を「都市山」と位置づけて、森の手入れ＝木を伐ること、森林の機能、公益機能、災害防

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

止機能など多岐にわたって説明されました。「人の手による荒廃」を踏まえて、手入れから「豊かな自然」も復元することを強調されました。

関さんは、原生的な自然が残っているという国立公園のイメージに対して、六甲山は景観とレクリエーション機能の2つのうち利用に重点があり、他の国立公園よりも規制が緩やかだと説明されました。

座談会では山の上が賑わった頃の体験談や、住民が減少した現状を懸念する報告もされました。六甲山が寂れた原因については、保養所の撤退の影響が大きいと指摘されました。これからについては、行政の役割や努力に加えて、六甲山を地域の共有財産として市民と一緒に取り組むことが話題になりました。戸田さんは「市民がモデルをつくるのが大事だ」と締めくくられました。

六甲山の現況と課題に市民の関心を高めたい

「六甲山は誰のものですか？」という問いに、「みんなのものです」という確認をしました。正面から本格的に六甲山について語り、関わる人が増えることを期待します。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 釜尾 拓也 さん

私にとって六甲山は都市の中に浮かぶ緑の島という印象でした。日本を代表する傑出した自然の風景地とまではいかななくても国立公園として保護されることは素直に嬉しいと感じていました。

しかし、多くの人が保護よりも今まで通り利用できることを重視していることはとても印象的でした。六甲山は私たちにとって身近な自然であるからこそ、利用し続けることが六甲山を良い姿のまま保つことにつながるのではないかと思います。



【助成金をいただいている機関】

兵庫県緑化推進協会、花王・みんなの森づくり活動助成、阪急阪神 未来のゆめ・まち基金、自然保護ボランティアファンド



第115回テーマ：国立公園六甲山地区の特色とこれから



第115回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：10:00~10:10
2. 野外観察：10:10~12:00
3. 講演：13:00~14:20
4. 交流会：14:30~15:30

第1部：講演

- 国立公園指定の背景と経緯
- 自然公園としての特色
- 六甲山系の環境保全および活用の在り方について

第2部：座談会：（戸田、松岡、関）

瀬戸内海国立公園 （六甲地域）



講演の挨拶（戸田 耿介さん）

私が六甲山に関わったのは昭和50年代、30年前で、センターの階段左手に植えたケヤキも大木になりました。建物は昭和50年オープンですが、オイルショックで予算が増やせず、苦労しました。



戸田さん

講演内容

<第1部：講演>

1. 国立公園指定の背景と経緯

■戦前までの六甲山開発

注目するのは、昭和2年に阪神電鉄が有野町から約250ヘクタールの土地を買収したことだ。ドライブウェイやロープウェイなどが整備され、別荘や保養所が溢れて、昭和10年代に観光ブームが訪れた。戦争で市街地が空襲に遭うなど、開発の火は消えた。明治の緑化から始まり、観光地として脚光を浴びてずいぶん利用された。

■瀬戸内海国立公園に編入

昭和9年(1934)に瀬戸内海が日本で最初の国立公園に指定された。1府10県にまたがる海の公園で、多島海景観と人の営みと融合した人文景観を特色としている。

昭和31年(1956)に六甲山地域(6,788ha)が追加指定された。戦後の復興期になぜ六甲山が指定されたのか疑問を持った。日本を代表するほどの自然の価値とは思えず、編入の裏づけ資料を探した。

■根拠資料は「六甲山観光計画」

昭和30年(1955)に「六甲国立公園指定促進連盟」が作成した資料の中に、田村 剛博士の「六甲山観光計画」がある。国立公園を指定する選考委員会の委員長をされていた。この方に頼んで書いてもらったようだ。その資料で六甲山を評価している。

自然景観としては、植生面において見るべきものが少ない。山上より四周の展望は頗る雄大で、全国に比べるものがなく…。人口稠密な阪神地方に介在する六甲山は、簡易に半日から一日の行楽に適する点で、全国に類のない利用度の高い行楽地であり…。その利用方法は頗る多角的である。などと結論づけている。これでパスしたみたいだ。

一方、当時の宮崎 辰雄市長は回顧録で、「環境

庁の取り締まり事項が多くなり、利用の仕事ができにくくなった」と反省しておられる。ここは、利用することを目的に指定された公園だと改めて確認できた。

2. 自然公園としての特色

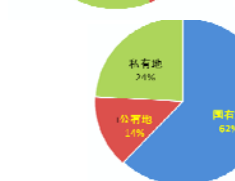
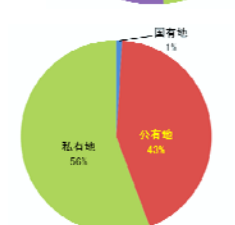
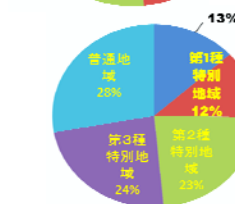
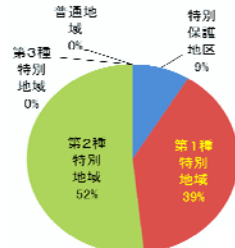
■自然公園計画

国立公園は景観や自然を保護する上で土地区分をしている。一番厳しいのが特別保護地区で現状維持が原則。六甲山では、西の再度山から摩耶山辺り、東は最高峰の北側と南側など。次は第1種特別地域で保護優先、摩耶山の下の方などに結構ある。第2種と3種はどちらかという利用、林業ができるかどうかで決まる。第2種地域はいろんな調整を行う。第3種地域は農林業はフリー。普通地域というのは六甲山にはない。

■土地所有状況

六甲山で特徴的なのは土地所有状況で、国有地は1%（震災後5%）しかない。それも国有林と防災緑地で、公有地はほとんどが神戸市。半分以上が私有地になっている。全国で見ると、北海道などの国立公園では国有地が多く、私有地・公有地は4分の1くらいだ。六甲山は私有地が多く、国立公園の規制は難しい。元々、観光的に開発された場所で、後から規制を被せていることも難しい理由の1つ。 上：六甲地域/下：全国（平成6年3月現在）

六甲山地区の地権区分別面積割合



3. 六甲山系の環境保全および活用の在り方

■土地利用と植生の遷移

昔は奥山、弥生時代くらいまでは原生林であった。平安時代からどんどん人が使い出し、山は燃料として使われた。江戸時代の終わりから明治の始めにかけては、ほとんど禿げ山になった。

明治の中頃から、災害防止とか水源涵養のために植林が始まった。特に昭和に入ってから緑が深まった。

服部 保さんの資料にあるように、植生は江戸時代から変わってきて、現在では山の上の方はコナラ、尾根筋はアカマツ、下の方は常緑樹に変わっている。いずれは、下の方はカシなどの常緑樹林、上の方はコナ

ラなどの夏緑林に変わると言われている。

■健康づくりに関心

震災の年、毎日登山の人を対象に調査をした。目的を問うと26%が心身のリフレッシュ、健康に良いというのが47%だった。六甲山はどんな山かを訊ねたら、健康づくりで半数近く、次が景観、災害防止がベストスリーだった。

〈第2部：座談会〉

1. 「六甲山森林整備戦略」の大筋(松岡 達郎)

私のところは基本的に森林の手入れ、観光の話も含めて考えている。六甲山系は、表六甲だけでなく、北側も住宅開発され、市街地に囲まれている山なので都市山だ。

人の手による荒廃：人間が樹木を過剰に収奪して禿げ山になったのが六甲山だ。

1900年代に治山治水三法が制定されて緑化が進んだ。人間が手を加えることによって、六甲山は豊かな森林に蘇った。100年ばかりで植生が回復したので片寄りも大きい。土壌はそんなに回復していない。それを放つたらかしのできない。

人が手を加えた方が望ましい景観が作れ、多様な生物の育成区域ができるのが可能な面もある。六甲山には種々の法律があり、木を伐ることに制約があるので、環境省とも話して適切にやっていきたい。

2. 環境省の六甲山の見方(関 貴史)

国立公園という雄大な景色や、昔からあった自然がそのまま残っている所がイメージされる。六甲山は景色が美しいのと、都市圏に近くて山上のレクリエーション機能が優れているので指定された。保護と利用では、六甲山は利用



の方はかなり重点を置かれ、全国的にもかなり特異な場所だ。残っている自然も天然のものはほぼなく、スギ林やマツ林など単一の植生が見られる。これに手を加えると元の自然の状態に戻すことにもなる。

昔からレジャー施設があり、人が利用している場所なので、自然のイメージや風景を壊さない程度でやることなら、むしろ進めていくべきだと思う。

3. 座談会の話

●人口が減って街が成り立たなくなっている

六甲摩耶鉄道社長の上田さんの『『山上に居る者』の視点から見た六甲山』を引用して問題提起された。

●山上の盆踊りも最近は途絶えた

山上で育った村上さんが、70年にわたって山が賑わい、5年前から盆踊りが途絶えたと体験を話された。

●保養所の閉鎖の影響が大きい

山の人口は最盛期で1,000名程度。保養所の閉鎖が進んで、環境を維持する機能も弱まっている。

●市民の力で環境活用する事例もある

活用する会から「まちっ子の森」での活動や、自然歩道の整備活動と、市民が担う難しさも紹介した。

●ドライブウェイ沿いの樹木が枯れていく

松井さんが、ドライブウェイ沿いの樹木にカズラが巻きつき、樹木が枯れる心配と対策の必要を訴えた。

まとめ(戸田さん)

自然公園という制度はあるのですが、法律が時代遅れになれば変えていかないといけないだろう。六甲山上の住民だけでは手に負えなくなっている。市街地のわれわれが恩恵だけを受けているのはいけない。何か新しい枠組みを考えたい。利用もし、手を動かすということで皆様のご支援を期待します。

事務局より

市民セミナーで、一番やりたかったテーマです。情報や資料もいっぱい提供しました。すぐには結論は出ない問題ですが、それだけに議論を続けていく重要さを共有できたと思います。

◆参考・配布資料など

- ・パワーポイント：「国立公園六甲山地区の特色とこれから」
- ・配布資料：「国立公園六甲山地域の成り立ちと今後の課題」「自然公園制度の概要」、「瀬戸内海国立公園」（地図、環境省）、「六甲山森林整備戦略の今後の展開」「六甲山森林整備戦略」（神戸市・六甲山整備室）、「『山上に居る者』の視点から見た六甲山」（『都市政策』上田均氏）。
- ・参考資料：市民セミナー報告書 No. 40、No. 49 など

戸田 耿介：とだ こうすけ

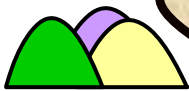
NPO法人子ども環境活動支援協会・監事
 〒673-0756 三木市口吉川町南畑 96
 電話：0794-60-1434 FAX：0794-60-1434
 E-mail：koharimu@nifty.com

◆参加者の声

- ・国立公園指定の背景と経緯が良くわかりました。
- ・中学生の頃は交通ラッシュ、今は人も車も少ない。

◆参加者：52名(50音順・敬称略)

赤司 宏子 天野 征一郎 石井 勇 泉 美代子 伊谷 正弘・幸子 井上 幸雄 岩村 陽佐 大上 政雄 大里 翠 岡田 照代 岡本 正美 岡谷 恒雄 釜尾 拓也 川崎 信行 木村 富子 久保 洋明 嶋崎 勝男 関 貴史 高坂 裕 高田 一 多賀 千枝美 瀧本 武司 武内 宏 竹田 美代枝 竹野 智明 辻 和雄 徳見 健一 戸田 耿介 堂馬 英二 中尾 啓子 中川 佐代子・周平 奈島 伴治 難波 美智子 藤岡 弘充 眞崎 光 松井 光利 前田 武廣 松岡 達郎 水越 幸代・紘之 宮島 久美子 村上 定広 安田 夫市 柳田 千恵子 柳本 英里 山下 博邦 山本 繁徳 横山 和子 吉岡 啓次 与茂田 正



第117回テーマ

ハテナ?から誕生した六甲連山バイブル

- 六甲連山バイブルはどのようにして生まれたのか!
- 山にはまったくの素人が登ると感動と発見と疑問の連続!
- 六甲連山バイブルの見どころは!



講師：東 充さん プロフィール
1944(昭19)年生まれ、69歳、神戸市出身。1995年の阪神淡路大震災により廃業し、神戸市都市整備公社の嘱託として震災復興事業に取り組む。2003年神戸長田コンベンション協議会を設立し、震災によって焼失した様々な写真の収集及び整理保存に取り組み、2012年神戸アーカイブ写真館の管理運営を委託される。



高取山の三角点が一番豪華

実施日：平成26年4月19日(土)
午前10時～午後3時30分
場所：六甲山自然保護センター、
まちっ子の森

晴れ空で、ハイカーの姿も増えてきた

朝の記念碑台の気温は11℃、タムシバなどが咲く行楽日和です。午前中は15名が参加して、散歩道散策とまちっ子の森整備の二手に分かれて活動しました。23名が講演に出席し、延べ27名が充実した1日を過ごしました。

震災復興を経て、アーカイブ写真館を運営

東さんは長田で漬物屋を20年以上やっていて、震災で家がつぶれて燃えて、そこから不思議な人生を歩いたと述懐されました。3,500坪の土地を借り上げて仮設店舗を作り、100店舗の管理運営をされています。その後、長田区役所の手伝いで、5万点の写真を整理され、火事で燃えた資料を収集し直す意欲を高められました。

さらに神戸市から委託されて50～60万点の資料の整理保存に携わっておられます。それがきっかけで、アーカイブ写真館の設立につながっています。「パソコンもろくに出来ん男が、写真の整理保存を自己流でやり始めた。たまたま六甲山に登って写真を撮りまくったのを整理したのがこの本につながった」と、背景を語っておられます。



『六甲連山バイブル』全5巻

「登山はまったくの素人」の連発に、感嘆の笑い

60歳になった時に、神戸市の若い子と初めて山に登って、全山縦走に行くために練習をされた。その際によく道を間違えて、「この道はどこへ下りて行くのかな?」と疑問を持ったのが発端になっています。平成18年11月23日に縦走を完走し、翌年1月から5年におよぶ山歩きを続けられたとのことです。「ふつうの人は山頂に登って、目的地を見て一杯飲んで帰る。僕の場合は、道があれば下りていき、また戻るといふ繰り返し」と、冒頭から意外性に富んだお話に参加者は引き寄せられていきました。

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

不思議な三角点を見てからは三角点ばかり35箇所を一通り調べる。68の滝、岩、神社、ダム、疑問や感動の連続で、納得いくまで調べる。「気の遠くなるような作業です。皆さんあきれてると思います」の言葉に一同大笑い。

登山道については、行き止まりも調べて書いた、わかりにくい登山口は拡大図を書いた。自分が欲しい地図を自分で作るようになったと、端的に本の特徴を述べられました。

終盤は、写真の整理についても詳しく解説していただきました。みんなが持っているエクセルとパワーポイントだけを使って、整理されているとのことで、素人の目線を大切にされる姿勢を実感できました。

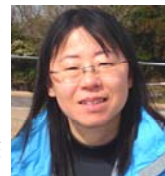
素直な疑問や好奇心を大切にしたい

117回の市民セミナーで、会場がため息や笑いでこんなに賑わったのは珍しいことです。東さんが「素人だから」と紹介される実践内容に共感が高まったのです。頭でっかちになって忘れがちな、素直な疑問や好奇心がほとぼしる様子を目にすることができ、大きな教訓を見出しました。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 堀 誠澄 さん

灘で生まれ育ち、小中高と学校の遠足や耐寒登山でなじみのある六甲山系。しかし、人について歩くだけで、自ら登山道について調べたりということのなかった私にとって、六甲連山バイブルは衝撃的でした。まさに魅力再発見というべき、充実した内容。実際に歩いて収集した資料は読むだけで何日かかるやら。そんなバイブルの中から、かいつまんでお話を聞かせていただき、皆さん熱心に聞いておられたように思います。



【助成金をいただいている機関】順不同
兵庫県緑化推進協会、花王・みんなの森づくり活動助成、自然保護ボランティアファンド、イオン環境財団、大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、セブンイレブン記念財団



第117回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：10:00~10:10
2. 野外観察：10:10~12:00
3. 講演：13:00~14:40
4. 交流会：14:40~15:30

- 六甲連山バイブルはどのようにして生まれたのか！
- 山にはまったくの素人が登ると感動と発見と疑問の連続！
- 六甲連山バイブルの見どころは！



初めての六甲全山縦走

講演の挨拶（東 充さん）

山は本当に素人です。60歳になって初めて山に登って、「この道はどこへ下っていくのか？」という疑問から、こんな本ができた。皆さんの方が山に詳しい、初心者が作ったということでご理解ください。



東さん

講演内容

1. 六甲連山バイブルはどのようにして生まれたのか！

■震災復興から「アーカイブ写真館」設立

神戸市の整備公社で震災復興に関わって以降、長田区役所の手伝いをして、倉庫で写真のネガを10箱くらい発見した。それで約5万点の写真を整理した。神戸市の本庁からも声がかかり、地下に行くと言った約60箱、50~60万点の資料が眠っていた。約7ヶ月かけて8人を雇って全部整理したら、神戸市文書館からも資料1万点のデジタル化を依頼された。このように写真の整理保存したことが、アーカイブ写真館の設立につながった。この本の自費出版にもつながっている。



アーカイブ資料館

60歳になった時、神戸市の若い子たちと「初心者クラブ」を作って、山に登りだした。鉢伏山から始めて、全山縦走の練習をするようになった。平成18年1月23日に、一番若い人と死にかけの年寄りの2人が完走した。(笑い)

■60歳の転機で「初心者クラブ」

60歳になった時、神戸市の若い子たちと「初心者クラブ」を作って、山に登りだした。鉢伏山から始めて、全山縦走の練習をするようになった。平成18年1月23日に、一番若い人と死にかけの年寄りの2人が完走した。(笑い)

■全山縦走から5年かけて踏査した

全山縦走の翌年1月から、「この道はどこに下っていくのかな？」という疑問から、山を歩き出した。塩屋の縦走路から写真を撮って歩き出すと、歴史や史跡にも関心が湧き、神社や史跡に立ち寄る。旗振山に登る、山頂や三角点にも疑問を持つ。

何かあると写真を撮って調べてみる。次から次に不思議なものが現れてきた。道があると下りていく、また戻るといった繰り返しをした。六甲山の縦走を開始して4年から5年かけて、最後に宝塚の塩尾寺に行った。

2. 山にはまったくの素人が登ると感動と発見と疑問の連続！

■登山道の名前に疑問

変なものがあればすぐに飛びついた。登山道には名前が付いている、何でこんな名前やと疑問が湧いて、調べるといった繰り返しをした。どんな本を見ても六甲山になんぼ山頂があるのか書いていない。地元の人しか知らない名前もあるようで、僕自身は79の山頂を全部行った。一番低い山頂は諏訪山151mとか、登りにくい山は剣山とか、山の「いわれ」も面白い。

■次々に疑問が湧く、そして調べる繰り返し

●三角点：旗振山にあるのは、埋もれて棒で囲んである不思議な三角点だった。それが初めて三角点ばかり調べた。一番豪華なのは高取の三角点(表紙写真)で、イスとテーブル付のすごいやつだ。

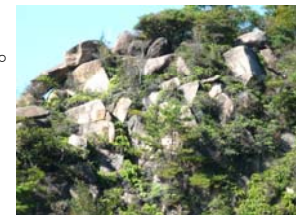


三角点

●地図：神戸市が発行している六甲縦走地図しか持っていない。図面もそれを使ってはめ込んでいる。

●滝：名前のあるのが68ほどある。一番大きい布引の滝、小さい小便滝は知られているが、大雨と放水の時だけの滝や行者が打たれる滝も調べた。

●岩：岩と名前が一致しないので何度も足を運んだ。荒地山ボルダーでは写真を撮って、地図とにらみ合わせて、結局地図まで作ってしまった。北山ボルダーも3つのエリアにわけて地図を作った。



荒地山ボルダー

●神社：神社もいっぱいある。南側に多いのは八幡神社で、北側には山王神社が多い。野仏も、四国88ヶ所、西国33ヶ所も多い。88ヶ所は9つの寺が持っている。神呪寺の88ヶ所の地図がなかったので自分が作った。

●ダム：鎧積みダムを見た時は感動でした。スリットダムや格子ダムを初めて見て、非常に楽しくなって川を上がっていった。



鎧積みダム

●登山道の地図：一般の本には書いていない道がいっぱいある。危ない道には道標が立っていない、自分が行って確かめて分かる範囲で細かく書いていった。登山口については分かりにくいので拡大図を作った。谷上や須磨で登山口を探すのは大変だ。曲がり

角に来てわかりにくいところは写真を付けている。写真だけでも7~8千枚使っている。



水無屋桐道

■「六甲山展」が本を作るきっかけ

六甲山の歴史は明治どころか、もっと昔からある。この間「六甲山展」をアーカイブ写真館で開催した。いろんな写真と年表を付けて紹介した。これを見た来館者から、「六甲連山バイブル」を出版することを勧められた。登山のものを分類して作ったのが今の本で、写真を整理保存するという作業をやっていたのが大きい。

●六甲連山バイブル(登山編)：六甲山の塩屋から宝塚まで400の登山道を掲載、5巻の基幹冊子。六甲連山の登山道400、六甲連山縦走ブロック別登山地図、六甲全山縦走路ブロック別所要時間、六甲連山の登山口・公園などの拡大図、六甲連山に係る由来・いわれ・伝説・民話等、六甲山の歴史変遷(古代から平成20年)

3. 六甲連山バイブルの見どころは!

■六甲山の写真の整理の仕方

●六甲の登山道を10のブロックに：六甲山の写真をどのように整理をしているか、「六甲連山写真集」の中にある「六甲連山バイブル」が基になっている、「六甲の登山道」ばかりの写真で10に分けた。(持参のハードディスクを開いて説明)

「西六甲」を開けると、「塩屋道、須磨道・・・」という具合に分かれ、「塩屋道」を開けると、「塩屋道の縦走路、塩屋東道、梅花道・・・」が出る。

●六甲の景観：西の鉢伏山から東の宝塚まで、景色いいところばかり何千枚も撮って、「景観編」というのにしている。

●山頂の写真：山頂名ばかり79を整理している。山頂で写真を撮ったら、必ず記憶のあるうちに山頂名を書くようにしている。時間が経つとわからなくなってしまう。

●神呪寺八十八個所の礼拝所：

甲山の神呪寺で八十八ヶ所を回ろうとして、1枚ものの案内図を求めたらなかった。そこで、歩いて調べて一個一個の写真撮って作った。気の遠くなるようなことをやった。



68・69番景観

■自分が欲しい地図を自分で作った

皆さんあさかしていると思いますが、素人がやるとこうなる。素人でなかったらこんなことをしません。一つ一つの道が全体でわかるようなものが必要だと思った。自分でわかりやすい地図を作らないと、他の地図をみても分からない。要は歩きながら、分かりやすい自分の地図を作った。400の道を90枚に収めた。

質疑・応答

●深みにはまっていますか？

深みよりも横なんです。一つの区切りが済めば次に行くというやり方をしている。登山が趣味で山に上がっているわけではないので。

●ソフトは何を使われていますか？

表だけがエクセルで、パワーポイントだけを使っています。みんなが使えるソフトにした。パワーポイントは本やパネルになる、地図も作っている。表と写真は全部、リンクさせている。

まとめ(東さん)

初心者でこのように一匹オオカミのように調べただけですが、六甲にからんでいろんな人と出会えることができたのが良かった。六甲のことはできるだけ、皆さんと一緒にこれからもお役に立てることがあればやりたい。

事務局より

当会でも素人の関心を大事にしながら、多彩な市民セミナーを開催して、『六甲山物語』を刊行しています。東さんの『六甲連山バイブル』と一脈通じるものを感じます。素朴な疑問や関心を持つことと、それを地道に整理することから、目を見張るような逸品が出来上がるのを出席者全員が学びました。

◆参考・配布資料など

- ・パワーポイント：『ハテナ“？”』から誕生した六甲連山バイブル、同上配布資料
- ・講演補足資料：写真各種、HDデータ
- ・図書など：『六甲連山バイブル』全5巻(關氏回覧)
- ・参考資料：神戸アーカイブ写真館パンフレット、六甲連山バイブル全五巻発売・チラシ(登山道編、山頂・三角点編、滝・奇岩編、景観編、神社・仏閣編)

東 充：あずま みつる

神戸アーカイブ写真館 代表

〒653-0042 神戸市長田区二葉町7丁目1-18

電話：078-642-2355 FAX：078-642-2355

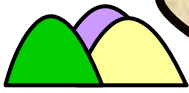
E-mail：kobonagatacc@abeam.ocn.ne.jp

◆参加者の声

- ・素朴な疑問からここまでものを作り上げられたのは、頭が下がります。私も参考にしたいです。
- ・「すごい」「すごい」新しい発見、もうけた講演だ!
- ・数ある写真をデジタル化し、整理する苦勞も理解できた。
- ・ぜひ、アーカイブ写真館に行ってみよう。
- ・会の山道整備や樹木の手入れは、いい取り組みだと思う。

◆参加者：27名(50音順・敬称略、午前のみゴシック4名)

東 充 天野征一郎 泉 美代子 伊谷 正弘 牛飼 勇太
岡本 正美 岡谷 恒雄 兼貞 力 柴田 昭彦 志茂坂博行
鈴木 紀生 關 善治 徳見 健一 堂馬 英二 長江 昭一
西山紀代香 西山 武 西山 弘 福永 一登 藤岡 弘充
堀 誠澄 前田 康男 松井 照雄 森主 大資 森本 良子
山下 博邦 山田 喜義



第120回テーマ 六甲山パートナーシップの 実現に向けて

- 都市山六甲山の歴史と特色
- 森林整備に対する価値（評価）の多様性
- 六甲山の課題とポテンシャル



講師：松岡 達郎さんプロフィール
1955（昭和30）年生まれ、年齢59歳。
生まれは東京ですが、育ったのは西宮・宝塚。小中と予備校が御影でしたので、この仕事についてから昔の写真をチェックして植生変化を確認しています。1979年（昭和54）神戸市役所に就職、公園緑地事業に取り組む。2011年（平成23）六甲山整備担当部長（室長）。



神戸市街と六甲山

実施日：平成26年10月18日（土）
午前10時～15時00分
場 所：六甲山自然保護センター、
記念碑台・散歩道

快晴の午前中は、環境整備と自然体験の2班

爽快な秋晴れの午前中、神戸びかびか隊など7名が近畿自然歩道のササ刈りに先行。初参加者など6名は「森と歴史の散歩道」を散策し保全整備の状況などを視察し、ササ刈り班に出会いました。



自然歩道のササ刈り

午後は18名が参加しました。

松岡さんと森づくりの意見交換が楽しみ

松岡 達郎さんは、神戸市が3年前に創設した、六甲山の新たな森林整備を進める専門部署で、初代の室長として第一線に立ち、100年後を想定して活躍されています。

当会が事務局を務める六甲山環境整備協議会に参加され、森づくりの活動に関して平素からお世話になっています。この市民セミナーでも、六甲山の自然環境に関するテーマには度々ご出席いただいてご意見をいただいています。

今回は、六甲山の森林整備の課題や方策を真っ正面から取り上げたいと考えて、出前トークをお願いしました。

整備戦略の背景を説明して、課題と方策の話題へ

本題に入る前に、「六甲山整備戦略」の前提や背景としての視点を整理されました。その第1は「都市山六甲山の歴史と特色」です。六甲山は大都市神戸に隣接する「都市山」で、林業が行われていないので、間伐など普通の山のような施策が適用できない特異な地域であると解説されました。

次に、これまで100年以上の六甲山の植樹の歴史を踏まえて、「木を伐って山を守る」方向への転換、「山の手入れ」を重視する活動を説明されました。そして、植生回復よりも土壌を復元するには長年月かかる、広葉樹には小規



新神戸駅北斜面で広葉樹を伐採

模皆伐も検討すべきであるなど、留意点を列挙されました。また、自然保護をめぐり、様々な価値観が対峙することや、国立公園内の私有林の管理など、地域特有の問題点にも触れられました。話題の最後は六甲山の課題とポテンシャルで、六甲山の森林保全に向けたプロジェクトのアイデアや、実施中の市有林の森林整備の現状を説明されました。

休憩後の意見交換の口火で、「林業施策を取り入れた山の管理だけではできない、金の仕組みや、市民参加の仕組みを考える必要もある」と補足されました。参加者から提言や質問があり、真剣なやりとりを続けました。話題が広範囲でしたが、配布された資料に全容が紹介されています。今回の講演で、「山の手入れ」の必要と、市民の参加を求めるメッセージは皆さんに浸透したと思われました。

「山の手入れ」の市民活動を期待したい

六甲山でイベントやスポーツを楽しむ試みは多いが、市民が「山の手入れ」について本格的に意見交換する場は貴重です。六甲山の森林の保全・整備は行政依存や他人任せにできない状況になっています。「森林整備戦略」も実施段階に入りますので、市民主導の活動プログラムも盛り込むことによって、着実に実践したいものです。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 柴田 清亮さん

六甲山について知りたいという思いからセミナーに参加しました。内容は難しく理解するのは大変でしたが、森林と人との関わり方や六甲山の魅力とはどういったものなのかなど考えさせられました。セミナーの後半には、意見交換会などもあり、積極的な意見や質問などを聞くことができました。私にとって、わからないことだらけでしたが、六甲山について興味を持つ良い機会になったと思います。



【助成金をいただいている機関】順不同

兵庫県緑化推進協会、花王・みんなの森づくり活動助成、自然保護ボランティアファンド、イオン環境財団、大阪コミュニティ財団（東洋ゴムグループ環境保護基金）、セブン-イレブン記念財団

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：神戸県民センター、灘区役所、神戸市教育委員会



第120回テーマ：六甲山パートナーシップに向けて



第120回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：10:00~10:10
2. 自然体験：10:10~12:00
3. 講演：13:00~14:10
4. 意見交換：14:20~15:00

- 都市山六甲山の歴史と特色
- 森林整備に対する価値（評価）の多様性
- 私有林の整備（必要性と公益性）
- 六甲山の課題とポテンシャル



講演終盤の意見交換

講演の経緯（松岡 達郎さん）

■目的・概要から紹介して、意見交換します

まず、六甲山森林整備戦略の目的や、六甲山の概要を説明します。次は価値観の多様性で、いろいろな意見があります。私有林をどうするかも課題です。六甲山パートナーシップとして、六甲山の課題とポテンシャルをお話して、意見交換をしたいと思います。



松岡さん

講演内容

1. 都市山六甲山森林整備戦略の概要

■都市山って何なのか

六甲山は宝塚～明石海峡の範囲で、東西方向約30km、南北方向約10kmの山塊で、神戸市域は約9,000haある。壊れやすい花崗岩の急峻な地形である。

六甲山は周囲を都市に囲まれ、都市計画の区域内にあるのが特色になる。市民の暮らしと六甲山の新しい関係をつくりだす、森林の持続可能な管理システムをつくる、六甲山の新しい価値を創造することが必要になる。

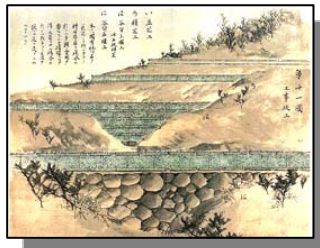
■来年度から10年間の取り組み

「六甲山森林整備戦略」は、六甲山森林の将来像を「多様な動植物が生まれ、多くの恵みをもたらし、美しく活力あふれ、街とつながる安定した森林『六甲山』と掲げて平成24年4月に策定された。「市民・企業・行政協働による六甲山の森林を支える仕組みづくり」を基本的な考え方に、2015年度までを準備期間として、来年度から当初10年間の取り組みを始める。森林整備手法、私有林での新たな取り組み、森林整備の組織体制、六甲山ブランドなどを課題にしている。

■人の手による荒廃と復元

昔の六甲山は収奪型で、樹木の幹だけでなく根も掘り取ったので、持続可能な木材・落ち葉の生産限界を超えて、土壌も失い無機物だけの環境になった。人為的介入をしなければ、ハゲ山状態が持続し、自然の力だけでは再生しない。

明治後期に各地で土砂災害が発生した。1895年に逆瀬川で緑化・山腹工事と堰堤建設がスタートした。このように、人間の努力によって森林に覆われた貴重な都市近郊林となった。



明治35年当時の植林工法／六甲山災害史

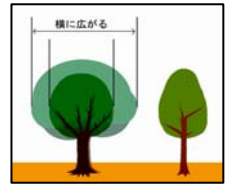
2. 森林整備に対する価値の多様性

■緑を守るのは「伐らない」で「植えること」

六甲山は、自然公園法、森林法、都市緑地法・近畿圏整備法で直接緑を守っている。砂防法など法規制が二重三重にかかり、いずれも伐ることは例外事項になる。

■森林の話をするとうるまひの話になる

林業では人工林の間伐がよく知られている。成長不良な木は間引きし、伐った木は生産材として使う。林業をしていない六甲山では広葉樹が95%で、広葉樹林の間伐すると樹冠が広がるので、小規模の皆伐も検討すべきである。



広葉樹の間伐

■人の手が加わることによる生物の多様性

砂防ダムの副次的効果として、土砂が堆積して湿地帯になっている。草地性の自然も人間が荒らした結果だが、これらの環境で生物多様性は豊かになっている。

3. 私有林の整備（必要性と公益性）

六甲山の半分は私有林で北区に多く、山上地域も私有地が多い。山村地域では林業施策を推進できるが、都市山では難しい。下唐櫃村での森林保全は例外的で、誰も手入れする人（森林整備の担い手）がいない。

■農山村振興と、緑地保全のゾーン分け

神戸市では生産林業が行われていないので、森林区域の保全に関しては、より公益性に配慮した緑地保全を図る「みどりの聖域」をベースにすべきである。

■六甲山の果たす役割について

どのような森林保全にお金を投資できるかを検討するために、平成23年度に神戸市民にアンケート調査した。何らかの整備を実施すべきは88.6%、行政の支援が必要は61.3%、NPO・ボランティアの参画・協力は25.4%であった。しかし、税金投入を問うと賛成は40%で、リスク負担よりも期待の方が大きい。

4. 六甲山の課題とポテンシャル

■六甲山上モデル

山上地区は大きく木が成長し眺望や見通しが悪化している。六甲山は寂れて活動者が減少し、放置山林の防災面も不安がある。私有林が多く企業や個人の財産も多い。明るい森づくりで活性化につながらないかを考えている。



樹木が成長し眺望を阻害

ハイキングコースを歩くと、高齢者や若い女性グループなど沢山の人が出会う。六甲山のポテンシャルだ。

■プロジェクト・アイデア

六甲山回遊構想に、山上回遊路、自然共生型ツーリズム、ローカルバイオマス、木材環境のリデザイン、企業

向け教育拠点、六甲の森・神戸学校林、六甲サトヤマ計画、などを盛り込んでいる。

■パートナーシップで都市山「六甲山」

六甲山の森林保全に向けたプロジェクト・アイデアを検討してもらう場（ROKKOTHON）を設ける。縦割りではなく、一つのテーマから多様な市民や行政・企業が対立ではなく、パートナーシップにより結びついていく現場が、都市山「六甲山」と考えている。

意見交換

●**松岡【口火】**：山上地域の活性化には山の手入れをすることが結びつくというのを主眼にやっていきたい。山上地域は約370ha、東はカンツリーハウス、西は三国峠辺りになる。「こんなことが面白い、こんな人を使える」といったことを聞かしていただきたい。

◆**高田**：神戸地域ビジョン委員会で、6月に六甲山でムーブメントをしたい。六甲山に関わるいろんなグループはあるが、横の連携があまりない。集合体みたいな六甲ブランドができればいい。人に来てもらえるイベント的なものから一步一步着実にやりたい。



◆**松井**：六甲山ドライブウェイ沿いの樹木が10年先20年先になったら無くなってしまう。10年前に葛を伐った。表六甲ドライブウェイで葛に巻かれた木がいっぱいある。今なら葛を根本から伐れば木は助かる。



●**松岡**：表六甲の沿線は最近ツル植物が繁茂して優先しかけている。表六甲沿いは国や市が持っている土地もあり、公共側でまず相談しなけりゃいかんという部分がありますが、持ち帰らせていただきます。

◆**兼貞**：六甲山を歩くと、若い人や中高年のハイカーが非常に多い。六甲山を遊びの対象、スポーツの対象と考え、歴史や自然環境について考えている人は余りいない。昔のように、企業が自然をもとに若い人を育てようとするのも欠けている。



●**松岡**：皆さん個人でハイキングなどに行かれる。それは健全なことと思うが、山の手入れをすることにも関心を持ってもらいたい。神戸市では、「にぎわい」と

いう視点から「六甲摩耶活性化プロジェクト」に取り組んでいる。プロジェクトを継続するパワー、持続的な観光施策にする話、集中的にやる話など、担当者も悩んでいると思う。

◆**大西**：ここまで都市化している国立公園は日本で探してもなく、私有地も多い。伊勢志摩国立公園は私有地が96%を超えている。私有地は利用する面で問題を感じる。整備された方が山に入りやすい。私有地の所有者の明確化をどのように図るか、行政として私有地への強制力、実効性をどう果たすのか疑問に思う。

●**松岡**：私有地の管理の問題と、明確化が一番大きな問題になっている。六甲での私有地をどう考えるのか、企業は保養所などの形で土地を持っているので、その辺の区域は明快な部分がある。いろんな形があるので私有地という切り口だけで判断するのは難しい。



左・大西、右・柴田さん

◆**柴田**：観光に興味があった。皆さんは深く考えられている。観光以前に六甲山自体をどうするか考えたい。

●**松岡**：神戸市の都市問題研究所が『都市政策』という機関誌を出している。そこに、元六甲摩耶鉄道の上田社長が六甲山の観光の特色、ここの観光の特殊性をきちんとまとめられているので参考になる。

◆**長谷川**：六甲道に住んで毎日六甲山を見て過ごしている。一番気になるのは表六甲のドライブウェイの不通で、これぐらいのことがなぜ開通しないのか不思議だ。道路が通じなければ六甲山の活性化もないから。



●**松岡**：道路の路盤のアスファルトの部分は持ちこたえているが、その下の急峻な所の土砂が流れて100m単位で崩壊している。崩れた箇所は国のグリーンベルトの区域を含んでおり、道路の開通、それから本格的な山腹の復旧になる、まだ目途は立っていない。

事務局から

松岡さんに、「六甲山森林整備戦略」というトータルなビジョンを語っていただきました。「六甲山の手入れをすること自体が、活性化につながる」というメッセージに多くの共感が集まるのを期待します。

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ：「都市山「六甲山」森林整備戦略から六甲山パートナーシップの実現に向けて」
- ・パワーポイント：
- ・講演チラシ：「本多静六・その人と業績」—六甲山のはげ山緑化を中心として」
- ・チラシ：「親子で学ぶ、山頂アウトドアクッキング」

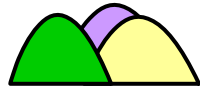
松岡 達郎：まつおか たつお
神戸市建設局 公園砂防部 六甲山整備担当部長
〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1
電話：078-322-6624 FAX：078-322-6087
Email:mt_rokko@office.city.kobe.lg.jp

◆参加者の声

- ・山の様子がよくわかって楽しかった。
- ・六甲山の治山・治水のいろんな方法と考え方がわかった。
- ・自然の有形、無形の恵みは実感できる。他の会員任せにしていた活動に関わりたい、自分に何ができるか探す。
- ・内容が大きすぎるので、もう一度資料を見て考えたい。
- ・広範な構想を緻密に組み立てておられる。実践を期待。

◆参加者：18名(50音順・敬称略)

泉 美代子 伊谷 正弘 大西 拓也 岡 敏明
岡本 正美 岡谷 恒雄 兼貞 力 坂本 明子
柴田 清亮 高田 誠一郎 堂馬 英二 長谷川 誠一
福永 一登 古川 芳枝 松井 光利 松岡 達郎
村上 定広 山下 博邦



2. 六甲山の植物を知る ～六甲山の生物～

①早春の六甲山の森

P 18～20



小館 誓治 こだて せいじ
兵庫県立人と自然の博物館
研究員
第109回市民セミナー講演
2012年4月21日

③春の六甲で木の花を 見てみよう

P 24～26



高橋 晃 たかはし あきら
兵庫県立人と自然の博物館
研究部長
第113回市民セミナー講演
2013年4月20日

②里山和楽会の活動 ～地域とともに

P 21～23



道満 俊徳 どうまん としのり
里山和楽会
代表
第112回市民セミナー講演
2012年10月20日

④六甲山上でキノコを 調べる

P 27～29



奥田 彩子 おくだ あやこ
兵庫県キノコ研究会
第118回市民セミナー講演
2014年6月21日

「六甲山物語4」の第2段は「2. 六甲山の植物を知る」で、植物やきのこ、そして森づくりの活動やお話しを集めました。県立人と自然の博物館の研究者と、在野の研究者、ボランティアの活動家に登場していただきました。

小館 誓治さんは県立人と自然の博物館の研究員で、森林土壌の専門家で植物観察の指導などでもご活躍です。第74回市民セミナーに続いてのご登場をお願いし、「早春の六甲山の森」をテーマに周辺地域での観察も指導していただきました。

里山和楽会の道満 俊徳さんには、「里山和楽会の活動～地域とともに」をテーマに、里山づくりの活動を紹介していただきました。神戸シルバーカレッジ卒業生が集まって、神戸電鉄・谷上駅付近の「かがやきの森の東地区」で里山林の管理・整備をされています。着実なステップで研究し活動され、里山づくりのモデルになると注目されています。

高橋 晃さんは、県立人と自然の博物館の研究部長で、当会の活動にも指導・助言をいただいています。第37回に引き続いて7年ぶりにご登場いただきました。「春の六甲で木の花を見てみよう」をテーマに、記念碑台周辺で樹木の花を観察したあと、顕微鏡写真をもとに、樹木の花を解説していただきました。

奥田 彩子さんは、若手のきのこ研究者です。「六甲山でキノコを調べる」をテーマに、午前中は自然歩道やまちっ子の森できのこを採集しました。近辺での本格的なきのこ採集は初めて興味深い試みです。午後は採取したきのこの同定や解説をしていただきました。



第109回テーマ 早春の六甲山の森

講演

- 早春の六甲山の森林植生
- 森林を構成している植物
- 森林土壌の特徴、花崗岩質土壌の特徴



講師：小館 誓治さん プロフィール
1962年生まれ、50歳。福岡市出身。84年岡山理科大学理学部卒業、86年神戸大学大学院 教育学研究科修士課程修了、92年神戸大学大学院自然科学研究科博士課程修了、学術博士。主に森林の植生と土壌の関係を研究。現在、兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境再生研究部 研究員。兵庫県立大学 助教。



まちっ子の森で咲き誇るクロモジを観察

実施日：平成24年4月21日（土）
午前10時～午後3時30分
場所：六甲山自然保護センター、まちっ子の森

新シリーズの市民セミナーを開始

六甲山は春の陽気ですが、開花期は例年より1週間程度遅れています。今年から市民セミナーは、4・6・8・10月の4回開催にし、午前中に周辺の自然体験を行うなど、各回を楽しく運営していきます。今回は新シリーズの第1回で通算109回になります。「早春の六甲山の森」のテーマに、28名が参加しました。



野外観察前に全員集合

小館さんは2回目のご登場

講師をお願いした県立人と自然の博物館の研究員・小館誓治さんには、第74回市民セミナー（2009年5月16日開催）で、「六甲山の森林植生と土壌」をテーマにご講演いただきました。現場でわかりやすく説明されるのが好評で、小館ファンも増えました。今回は当会が景観整備している「まちっ子の森」で自然体験し、森づくりについての助言をお願いしました。事前に地域を下見されて、当日の説明を準備される熱心さに改めて敬服しました。

まちっ子の森での観察と講演

六甲山自然保護センターに集合して簡単なガイダンスを受け、早速、「まちっ子の森」に向かいました。途中の近畿自然歩道から植物観察が始まり、参加者の関心は高まりました。



「まちっ子の森」入り口

「まちっ子の森」では、アセビ伐採調査の結果明るくなった雑木林中で、樹木の状態の特徴などを解説していただきました。

ご専門の土壌調査では、コバノミツバツツジの群落辺りで見つけた土壌サンプルを採って、土色帳での読み取り

を指導していただきました。ササの地下茎がマット状になり、実生の発芽定着を妨げていることも知りました。北西にある崩落地にも足を伸ばし、沢山のスマイレとクロモジの大木という見所に感激しました。



土壌調査の指導

昼食前にセンターに戻ってゆっくり食事をした後、観察したことへの解説や、森林土壌についての実験の結果などの説明を受けました。

自然観察あり、土壌調査あり、森づくりのヒントありで、皆さんが充実した1日を過ごされた様子でした。

まちっ子の森づくりに生かしたい

主催者側の頭の中は、森林ボランティア活動を進めるという課題が大きく占めています。まちっ子の森や近畿自然歩道の保全・整備の方策や手がかかりに関心が向いていました。小館さんの様々なお話しから、森づくりの指針や景観整備の方向などが浮かんできました。みんなで大切にする六甲山の森づくりに前進します。ご指導に感謝します。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 山本 悟而 さん

「まちっ子の森」には驚きました。近畿自然歩道から一步入っただけの場所なのに、いつも歩いている六甲山とは全く違う世界がありました。その一つはコバノミツバツツジの群落、もう一つは満開のクロモジの大木に出会えたことです。クロモジはヒョロヒョロという印象しかありませんでしたが、この木は枝を左右に広げた堂々たる大木で、しかも枝全体に黄色い花をつけて見事でした。



主催：六甲山を活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】
大阪コミュニティファンド（東洋ゴムグループ環境保護基金）、花王・みんなの森づくり助成、コープこうべ環境保護基金、兵庫県緑化推進協議会



第109回テーマ：早春の六甲山の森



第109回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：10:10～10:20
2. 野外観察：10:30～12:00
3. 講演：13:15～14:30
4. 質疑応答：14:30～15:15

- 早春の六甲山の森林植生
- 森林を構成している植物
- 森林土壌の特徴、花崗岩質土壌の特徴



まちっ子の森で樹木の解説

講演の挨拶（小館 誓治さん）

県立人と自然の博物館の小館です。3年前にも森林と土壌についてお話ししましたが、今回はファミリーも参加ということで下見もしてきました。簡単にガイドをしてさっそくまちっ子の森に入りたいと思います。



魔法の飾(ふるい)と小館さん

講演内容

ガイドランスのあと、「まちっ子の森」の尾根北側に行きます。そこで森と土壌の観察をし、尾根の北西側にある崩落地と比較します。

1. 早春の六甲山の森林植生（ガイドランス）

■六甲山はツツジの仲間が多い

ラップ状の花がつくツツジの仲間がたくさんみられ六甲山の特徴が出ている。アセビの花は終わったが、これからコバノミツバツツジ、5月にはスノキ、ネジキ、ドウダンツツジ、ヤマツツジなどが咲く。ここのコバノミツバツツジは花芽のないものが多い。花芽ならば今頃は紫色の花びらが見えている。前年の7、8月頃に太陽が十分に当たらないと花芽がつかない。2年前から、アセビを伐採されているということなので、今後花芽が増えると思う。



コバノミツバツツジの花芽



クロモジの花束

■今朝見つけたクロモジの花束

尾根北西の崩落地でクロモジを見つけた。つぼみに近いが花芽をたくさん付けている。葉芽と花芽は形も違い、丸いのが花芽、尖っているのが葉芽。オシベ、メシベは1つの花芽に入って、花芽が2、3コ集まって花束になる。くすだまから花吹雪が出るようにパッと割れて花が咲く。クロモジはクスノキの仲間で、いい香りがする。

■花がなければ樹肌を見よう

5月なら花も咲くが、今は早春といっても花はまだ多くない。その時は樹肌を観察するとよい。西山家のマイウッド、ヤマザクラでは皮目が見られる。ここで呼吸＝ガス交換をしている。だんだ

ん幹が大きくなると皮目がつながって線状になる。人の顔に見えないかな？

アカマツやコナラなど木の樹皮とその内側では成長速度が違うので樹肌に亀裂が生まれる。リョウブは樹皮が剥がれる順番で、その痕の色が異なる。



サクラの幹の顔

2. 森林を構成している植物（現地観察）

■尾根上の土壌では植物は再生困難

尾根上はアカマツ、ヤマザクラ、リョウブ、ソゴ等の高木とツツジの仲間やタンナサワフタギ、コックバネウツギ等の落葉低木から構成されている。ここの土壌を検土杖で採取し土色帳で土色を確認した。そのときの検土杖の最大の土壌貫入深は37cmであった。また深さ0～12cm、12～26cm、26～37cmで土層の色が違っていった。深さ0～12cmの土層は黒褐色で腐植が多かった。特に深さ0～4cmのところには、ミヤコザサの地下茎や腐植でマット状になっている。ここに種子が落ちてても定着しにくいと思われた。

■小規模崩落地を観察する

尾根の北西斜面には小規模の崩落地がある。地表はアカマツとコナラの落葉で薄く被われている程度。検土杖での最大の土壌貫入深は21cmで全体に赤っぽい色をして径が2mm以上の礫が多い。尾根上でみられた黒褐色のマット状の部分はない。傾斜地で表層土壌が除々に下方に流れるのでササ類が入っていないのであろう。ここではシハイスミレやナガバモミジイチゴ、ツツジ類が生えている。尾根上に比べ土壌が浅いがいろんな植物が入りやすそうだ。



シハイスミレ

■林縁をなす自然歩道沿いの植物

林の端には、ツル植物やトゲのある植物が多い。袖群落とかマント群落といわれる。トゲがあって、「森に入るなよ」という雰囲気醸し出す。典型はニガイチゴである。自然歩道の山側法面はササ刈りをしてあるので、ニガイチゴを始め、コアシサイ、イヌツゲなどの多様な灌木が多い。チゴユリなども芽を出してきている。タンナサワフタギは白い花を沢山つける。六甲山はタンナサワフタギがあるが、日本海側ではサワフタギである。

3. 森林土壌の特徴、花崗岩質土壌の特徴

自然保護センターに帰ってきました。土壌をみていくと地形と関係があり、どういう生育環境かが分かるということをお話しします。

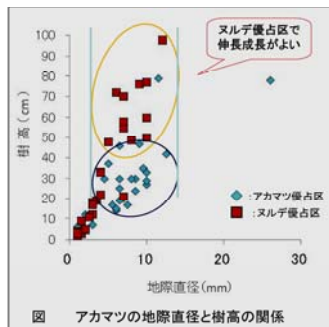
■再生植物は一様でなくパッチ状に発生した

アカマツの再生条件を見極めるため、再度山で実験的に20m角の区画を皆伐し、表土5cmと木の根を除去した。その中に10m角の調査区を取り1m×1mの小方形区を作った。

6年後、小方形区で一番多かった植物から、アカマツ優占区、ヌルデ優占区、ニガイチゴ優占区、草本種優占区に分け、それぞれの優占区での小方形区あたりのマツ個体数は、アカマツとヌルデ優占区で多く約8本、ニガイチゴと草本種優占区では少なく2~4本だった。

■ヌルデ優占区ではアカマツの成長が著しい

アカマツの地際直径と樹高のグラフで解析するとヌルデ優占区では、アカマツの伸びが大きかった。場所によりアカマツの定着や生育の仕方が違うのが分かった。そこで土壌の違いに着目した。



ヌルデ優占区でマツの成長が速い

■植物に影響している土壌環境は?

表層の土壌懸濁液の pH と導電率 (栄養分が多いことを示す) を調べると、アカマツ優占区は pH がやや高めの酸性で導電率が低め、一方ヌルデ優占区は pH がやや低めの酸性で導電率はやや高かった。さらにヌルデ優占区ではアカマツ優占区よりも礫量が少なく最大毛管含水量が多い。このことはヌルデ優占区が水持ちがよいことを示していて、アカマツだけでなく他の植物種の出現頻度は高くなっていった。

10m角の狭いエリアだが、雨で土壌が流れて砂っぽくなる所と、土壌が僅かでもたまって粘土っ

ぽくなり水もちがよい所が出てきて、それにより侵入してくる植物の種類もかわる。六甲山地は乾燥しやすい花崗岩地なので一般に土壌中の有機物や粘土分を多くして水持ちの良い土壌にする。

まちっ子の森の尾根上の平らな所と崩落地を比べると、尾根上はササ類の地下茎、腐植が多いマット状の土層が厚い。一方、崩落地はそれがなく土壌が全体に明るい色で礫っぽい。



崩落地斜面で植生と土の観察

尾根上の所は黒っぽい色の土層が比較的厚いので栄養分は多そうだが、新たな植物が定着しやすいかと言うと疑問である。崩落地は雨で細かい土壌粒子が下方に流れ易く、礫が多い土壌になり易い。腐植が多い土層の厚さだけでなく、地形や土壌環境を考え景観設計を検討する必要がある。

質疑応答

■この森の再生にはマット状土層を除くの?

どういう景観にしたいかにより違う。例えば松林にしたいなら剥がすのも一手である。

■まちっ子の森で細かい土壌調査は必要?

景観設計により違う。素人発想でよいので分かりやすい視点で仮説設定するとよい。

まとめ(小館さん)

天気がよかったのが一番です。ファミリーが参加ということで参加者に応じた見せ場の設定をいろいろ考えました。室内より外で現場をみながらお話しし楽しく自然を体験していただくのがベストです。また、ひとはくにもぜひおいでください。

事務局より

腐葉土が多いばかりでは若木は育たない、崩落地の礫の多い所に多様な植物が入ってくる、森は土壌の変化でダイナミックに動いている。植物名だけでなく、変化する森の動きを感じ取りたい。

◆参考・配布資料など

- ・パワーポイント: 「早春の六甲山の森」、「アカマツ二次林の植生再生と土壌」
- ・パンフ: 「ひとはく手帳 2012 版」
- ・土壌測定具: 検土杖、山中式土壌硬度計、篩 (ふるい)、標準土色帳など
- ・第73回市民セミナー報告書 (講師: 小館氏)

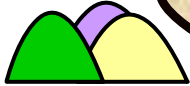
小館 誓治: こだて せいじ
 兵庫県立人と自然の博物館 研究員
 〒669-1546 三田市 弥生が丘6丁目
 電話: 079-559-2001 FAX: 079-559-2007
 URL: <http://hitohaku.io>

◆参加者の声

- ・まちっ子の森は初めて。コバノミツバツツジの群落やクロモジの大木にはビックリ!
- ・花や樹の話はどこでも聞けるが土壌の話は新鮮だ。
- ・いろいろ自然活動や整備が進んでいて驚いた。
- ・小館先生のきめ細かな伝え方に心打られました。

◆参加者: 28名 (50音順・敬称略、うち、子ども3名)

泉 美代子 板野 武一 牛飼 勇太 岡井 敏博
 岡本 博樹 岡本 正美 岡谷 恒雄 尾崎 尚子
 神野 忠広 久保 紘一 小館 誓治 高橋 直樹
 田邊 征三 谷口 日出二 寺垣 耕平 徳見 健一
 堂馬 英二 長島 武徳 西山 弘・芳子・陸斗・
 紀代香・武 福永 一登 前田 秀二 松井 光利
 柳田 千恵子 山本 悟而



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.112
里山和楽会の活動～地域
とともに／道満 俊徳
2012年10月発行

第112回テーマ 里山和楽会の活動 ～地域とともに

講演

- 里山和楽会の結成と運営
- 里山林の管理・環境整備
- 地域とのコミュニティづくり



講師：道満 俊徳さん プロフィール
1938(昭和13)年生まれ、73歳、神戸市北区在住。神戸市シルバーカレッジ13期卒業生。同カレッジで3年間学んだ仲間を中心に「再び学んで、他のために」をモットーに、知識や経験を生かし、広く社会に還元するボランティア団体である「NPO 社会還元センターグループわ」のサークル、「里山和楽会」代表。



里山整備作業

実施日：平成24年10月20日(土)
時間：13時00分～15時45分
場所：六甲山自然保護センター

午前中は13名で自然体験・整備活動

午前10時から12時まで13名が参加して、まちっ子の森で自然体験会&環境整備活動を行いました。伐採したアセビの整理に専事する一方で、講師の道満さんに観察コースをご案内しました。

神戸市シルバーカレッジ卒業生が活躍

講師の里山和楽会代表の道満さんは神戸市シルバーカレッジの卒業生です。今年の2月11日、ひとはく第7回共生のひろばで口頭発表し、館長表彰を獲得されました。

5年前に、県立人と自然の博物館の服部 保先生から里山和楽会が手作りされた里山管理のマニュアルを紹介されて、感心しました。このたび、やっと里山整備のお話を聞けることを喜んでいます。講演中、くり返し、シルバーカレッジの魅力や卒業生の活躍ぶりを強調されたのが印象的でした。

里山整備と管理を正攻法で実践

里山和楽会は神戸電鉄の谷上駅から、南へ約1キロのかがやきの森東地区約3haで里山整備をしています。障害者福祉施設のかがやき神戸が所有している放置林を、地域と一緒に自然を楽しめる場所にしているのです。

シルバーカレッジ13期の卒業生15名で活動をスタートし、全員が里山のことを知らなかったのが、服部 保先生に指導を仰いだのです。そして、兵庫方式で「夏緑高林型」の景観を目指しました。



かがやきの森東地区

まず、ランドデザインを作って、かがやき神戸と合意し、活動のあり方を周知するために各種のマニュアルを作って活動を軌道に乗せていったのが特徴です。

地形図をもとに外観図を作って5つのゾーンに分けて植生調査を実施しています。活動計画を作って結果を記録に残すという着実さで、年間40日ほどの作業を続けて、11月には第1次整備再生を完了します。

地域とのふれあいにも力を注ぎ、林床整備して堆肥を製品化し販売し、しおりやカレンダーも販売し、売上は寄付しています。小学生の環境教育を支援し、地域の人たちに観察会を催すなど多彩な活動ぶりです。2、3年後には整備から保全の活動に転換したいと、意気軒昂です。

後継者づくりと拡がりが次の課題

70代の方が主導して見事な里山整備・管理を進めておられます。この活動を地域の内外に広めて、担い手となる後継者を見出すことが大きな課題になっています。団塊の世代を挟んで、その次の時代にどのように引き継いでいけるかは、市民活動に共通するテーマでしょう。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 伊谷 幸子 さん

私は二度目の参加でした。夫と一緒にバスに乗り、丁字が辻で下車、記念碑台まで歩きました。説明を受け、道具をお借りして山に入り、細かい枝をハサミで切ったり、炭用に1.1mに切っているアセビの生木を表通りまで運ぶ作業でした。初参加の若い人達に、先輩ぶって教えてあげたり、楽しい作業でした。セミナーは道満俊徳氏の里山のお話で、とても熱心でよい講演でした。機会があれば、又参加したいと思います。



主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

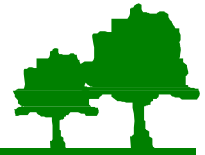
後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

大阪コミュニティファンド(東洋ゴムグループ環境保護基金)、花王・みんなの森づくり助成、コープこうべ環境保護基金、兵庫県緑化推進協議会、自然保護ボランティアファンド



第112回テーマ：里山和楽会の活動～地域とともに



第112回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00～13:10
2. 講演：13:10～14:30
3. 意見交換：14:50～15:45

- 里山和楽会の結成と運営
- 里山林の管理・環境整備
- 地域とのコミュニティづくり



出席者の発言も活発

講演の挨拶（道満 俊徳さん）

今朝10時から六甲山を活用する会の活動現場を案内してもらい、丁寧な説明を受けました。アセビが群生しているの目にもしました。

それでは、われわれの活動を整備再生の現状と、地域との係わりの2部構成でお話しします。



道満さん

講演内容

1. 里山和楽会の結成と運営

■ シルバーカレッジ卒業生が結成

里山和楽会はシルバーカレッジ同期の仲間15名で作った。シルバーカレッジは「再び学んで他のために」という建学の精神で、ボランティア活動を勧めている。平成5年に開校して以来、すでに5,000人以上の卒業生がいて、半分くらいは神戸市内で活躍している。

■ かがやきの森東地区で活動

活動場所は「かがやきの森の東地区」で、神戸電鉄・谷上駅から南へ約1キロ上がった新興住宅の横で、靴下のような所だ。標高350から380Mで面積は約3haだ。

障害者の福祉施設「かがやき神戸」は、かがやきの森という放置林を持っていた。理事長から、何とか再生し地域の方々と一緒に自然を楽しむ場所にしたいと要望されて、2007年4月に会を結成しスタートした。

■ 学習してマニュアルも作った

15名でスタートした。まったく里山のことは知らない者ばかりで、服部先生にレクチャーを受け、里山林の整備のあり方を学んだ。手法は兵庫方式で、景観的には夏緑高林型を目指した。

目的・目標については会則を作り、ランドデザインを作った。かがやき神戸の管理地なので、最終的なデザインを示して、契約の形を作って、両者で合意した。住宅地に近いので癒しの森、夏緑高林型・生物多様性の森に目標を定めた。皆が同じレベルで作業していきたいので、活動のあり方のマニュアルが要ると考え、数ヶ月かけて色々マニュアルを作った。

■ 計画的な運営

最初は活動の計画を作り、その結果を記録という形で



伝え、そしてどんな場所か、地名、番地をここに載せ、かがやき神戸、そして地域の住民の方の目線で Plan・Do・Check・and Action という形で活動している。

日々の活動は週の月曜日を活動日にし、7つのチームに分けて、年間40日間ぐらい活動している。まず活動の計画を作成したものをメールで配信する。そして当日集まってミーティングをし、約3時間の作業をする。その後は各チームでしてきたことを発表し、記録に取っている。情報の共有化に努めているわけで、これを繰り返してやっている。



かがやきの森全景

2. 里山林の管理・整備

■ 地形図を作成して植生調査

地形図を作るためスケーリングをし、そして概観図を作って5つのゾーンに分けた。その中を10メートル×10メートルの100㎡という調査枠（作業枠）を作った。

最初に73の調査枠を一気に作って調査をした。その次に植生調査をスタートした。基本的な調査項目は、階層、種名に本数、胸高周りに被度で、植生調査表を作っている。そして観察木を決め観察もしている。ここには126種あるが、47種だけを捉えて、観察項目について把握するために四季折々の観察をしている。

■フロー図を基に管理作業

植生調査枠とまったく一緒の管理作業枠を設けて、調査した後で管理作業に入る。活動計画に基づいて記録を作っている。管理作業枠の中で、伐る・伐らないの判断をして保全木を決め、それをマーキングする。

樹木の調査で全部マーキングして伐採し、ピオネス（堆肥ピットを作ってそこで熟成して堆肥にする）に積んでいる。林床整備とこの一連の流れが活動の状況で、これを毎回繰り返している。

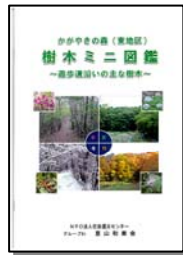
■今年度で第1次整備作業は完了

Gゾーンが2012年の1月に終わった。最初はホワイトゾーンで2008年に完了し、そしてイエローゾーン、その次にブルーゾーン。さらにグリーンゾーン、そして今年はレッドゾーン、これを済ませるとおおむね第1次の整備再生が終わる。

3. 地域とのコミュニティづくり

■林床整備と観察路づくり

林床整備をして堆肥を作り、堆肥は製品化して、ふれあい祭りで販売している。ぐるっと回っても30分位だが、道を作り、案内板を設置している。眺望が非常にいい所には景観図を設置している。春と夏と秋にはマップを作り、樹木のミニ図鑑ができた。



樹木ミニ図鑑

■ふれあい祭りに参画

毎年1回だけ、地域の方と自治会と一緒にふれあい祭りをしており、われわれもスタート当初から参画している。その内は4つで、1つは先ほどの堆肥、それと花や蝶のしおり・カレンダーなどを販売。そしてお子さん対象のキコリ大会、さらにドングリ工作やダーツ遊びを、毎年やっている。



子どものキコリ大会

■様々な自然体験を支援

2006年位から3年生に対する環境教育がスター

トした。われわれも2008年からずっと地元の小学校とやっている。体験学習という形で、音を聴いたり体感してもらっている。

「この木何の木」ということで、植物に関心を持ってもらおうと、木の高さ、木周り、葉っぱを測り、木肌を塗料で塗ったりしている。枯れ松を伐採して年輪を測定してもらっている。ピットの中にはカブトムシが沢山発生するので観察してもらっている。小学生の低学年は昆虫が大好きだ。子供達がここに出来るだけ入って行って、故郷の森にしてほしいと思っている。

■他の団体との交流

夏休みに入った直後に、夜の昆虫採集と天体観察の両方を、六甲の自然を守る会の清水さんの団体と一緒にやっていて、非常に人気だ。

まとめ(道満さん)

スタート時のメンバーから人が増えないのは大変だと思う。財源の方も確保することや、かがやき神戸にもっと還元すること、地域との一体感づくりを考えたい。生物多様化の保全には寄与しているが、ナラ枯れ防止も課題になっている。11月に第1次整備を完成するので、2、3年後は第2次の保全を行いたい。

質疑応答

■グループの人は地域に住んでいるの？

地元は私だけで、灘区、西区、須磨区、北区など、あちこちから来ています。会費は取るが、ボランティアですので支払いはしません。

■地域の若い人は来ますか？

周りは30、40代のサラリーマンが増えて、子どもの声も賑やかで活気のある新興住宅地です。50歳近い方々を継承者にするのが望ましい。自治会に働きかけたが駄目でした。

事務局より

平成24年度の市民セミナーは4回開催という新たな試みであり、その最終回を意義深い講演で締めくくっていただいた。ビジネス界で活躍した方々が、新たな境地で地域貢献されているのは、熟年者の手本になると思う。しかも、原則を踏まえて、着実な展開をされていることは、賞賛に値する。われわれも学び取りたい。

◆参考・配布資料など

- ・パワーポイント：「里山和楽会の活動～地域とともに～」
- ・パンフ：「かがやきの森東地区里山散策マップ」、
「かがやきの森と里山和楽会」
- ・資料：「里山林の管理マニュアル」、「樹木ミニ図鑑」
- ・参考VTR：「ハチ対策」

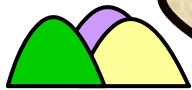
道満 俊徳：どうまん としのり
里山和楽会 代表
〒651-1212
神戸市北区筑紫が丘 8-3-16
電話：078-583-3228

◆参加者の声

- ・身近な地域社会で自然保存、環境整備、地域おこしにご活躍なさっている和楽会の皆様にご敬意を表します。
- ・本日の講演はPDCAともに完璧な内容でした。
- ・実地にお伺いして勉強させて頂ければと思います。
- ・KSCの学校に来て頂いてご講演をお願いしたい。
- ・とてもお上手で、とても良いお話でした。

◆参加者：19名(50音順・敬称略)

泉美代子 伊谷 幸子 伊谷 正弘 板野 武一
岡本 正美 尾崎 尚子 岡崎(里山和楽会)
田邊 征三 渡海 宗一郎 堂馬 英二 道満 俊徳
福岡 省悟 藤原 壮一 松井 光利 村上 定広
山下 昌人 柳田 千恵子 脇田 博幸(18名)
※午前の自然体験会：徳見 健一(1名)



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.113
春の六甲で木の花を見てみよう/高橋 晃
2013年4月発行

第113回テーマ 春の六甲で木の花を見てみよう



まちっ子の森を散策

講演

- 春の六甲山に見られる木の花
- 木の花の構造も見てみよう
- まちっ子の森や散歩道の楽しみ方



講師：高橋 晃^{たかし あきら}さん プロフィール

1954年生まれ、59歳。岐阜県出身、三田市在住。1984年大阪大学大学院理学研究科博士課程単位取得退学。1990年から兵庫県立人と自然の博物館の設立準備にかかわり、1992年の開館後、姫路工業大学助教授を経て、兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授、人と自然の博物館自然環境評価研究部長（兼務）。専門は、植物形態学、植物分類学、木材解剖学、総合自然史学。

実施日：平成25年4月20日（土）
午前10時～午後3時00分
場所：六甲山自然保護センター、
まちっ子の森

まちっ子の森と散歩道を散策

年4回開催の新シリーズ2年目の市民セミナーに、35名の参加者が集まりました。

「春の六甲で木の花を見てみよう」という恰好のテーマで午前中は野外観察し、午後は講演を受講するという内容豊かな1日です。



野外観察前に全員集合

高橋さんは7年ぶりのご登場

県立人と自然の博物館の研究部長の高橋 晃さんには、2006年4月の第37回市民セミナーで「六甲山の早春の植物を見てみよう」で、「スプリング・エフェメラル」（春の妖精）をご紹介いただきました。

また、当会が事務局を担っている六甲山環境整備協議会の幹事として、環境調査や整備活動にご指導をいただいています。今回は7年ぶりのご登場をお願いしました。

「六甲山頂・散歩道」を観察してからの講演

六甲山自然保護センターの駐車場付近から、ツボミの御衣黄桜や、満開のタムシバの観察が始まりました。近畿自然歩道に入るとアセビも満開でした。ゆっくりしたペースで「まちっ子の森」に入りました。アセビを伐採して明るく変容した森で、見学コースを辿りました。植物案内は尾崎さん、二つ池の生物解説は久門田さん、に応援していただきました。クロモジの大木がある斜面に咲いたスマレも観賞し、自然歩道に戻りました。ここでは「六甲山頂・森と歴史の散歩道」へと補修整備している状況も視察しました。



“二つ池”での解説

六甲山らしい静かな山道を六甲山ホテルの東側まで歩き、

キブシやアケビなど目立たない木の花も探して解説していただきました。ホテルからドライブウェイを東に歩いてセンターに戻りました。

午後の講演では、目立つ花と目立たない花に分けて、スライドで解説していただきました。木の花の語源や、顕微鏡写真での花の構造の説明は、印象深いものでした。

ご専門の植物形態学や分類学の知見に質問を受けて、丁寧に説明されました。締めくくりで、「まちっ子の森」の手入れを踏まえ、生物多様性回復の見込を講評されました。



センターに戻って講演

まちっ子の森での植物回復を期待したい

目立たない木の花をみつけるということを触発されました。まちっ子の森を皆さんでゆったり散策していただきました。陽が当たるようになって、草花や土壌生物が活発になりつつある状況を確認しました。六甲山上では貴重な森の手入れをしつつ、観察を楽しめる環境にしていきます。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 加藤 香 さん

セミナーに初めて参加させていただきました。不安定なお天気と寒い気温が心配でしたが、散策中雨に降られることもなく、春の六甲山に咲く樹の花について、観察をしたり、高橋先生から花の特徴などについて詳しいお話を聞かせていただくことができました。植物については知識がなく、花の名前を覚えるのが大変でしたが、これからも六甲山の自然に親しみながら、多くのことについて学んでゆきたいと思っています。



【助成金をいただいている機関】

兵庫県緑化推進協会、花王・みんなの森づくり活動助成、阪急阪神 未来のゆめ・まち基金、自然保護ボランティアファンド

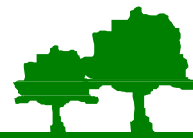
主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会



第113回テーマ：春の六甲で木の花を見てみよう



第113回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：10：00～10：10
2. 野外観察：10：10～12：15
3. 講演：13：00～14：30
4. 質疑応答：14：30～15：00

- 春の六甲山に見られる木の花
- 木の花の構造も見てみよう
- まちっ子の森や散歩道の楽しみ方



記念碑台駐車場で満開のタムシバ

講演の挨拶（高橋 晃さん）

7年前には春の花というお話して、主に草花でした。今日は木の花を見てみようということにしました。今朝歩いてみて、まだツボミで花は多くなかったです。



高橋 晃さん

講演内容

1. 春の六甲山で花を見られる木

春のシーズンには、アセビ、ヒサカキ、クロモジ、キブシ、コバノミツバツツジ、コバノガマズミ、コツクバネウツギ、ツクバネウツギ、アケビ、コナラ、タムシバ、ウグイスカグラ、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、オオバヤシャブシ、フジ、ウリカエデなどが花を咲かせる。

キブシ、ヒサカキ、アセビ、ヤマザクラは3月下旬から咲き始める。山頂付近になると、4月中旬以降でないと咲かないと思われる。

2. 六甲山で目立つ花

■目立つ花といえば？サクラ！

サクラの仲間が目立つ。今中腹で咲いているヤマザクラ、道路沿いで等間隔に植えられているのはソメイヨシノだ。



サクラの中でもウワミズザクラ（上溝桜、裏（占）溝桜）というサクラがあり、花序が穂になり普通のサクラとは違う。花びらが5枚で、ヤマザクラと同じように離弁。おしべも10本以上ある。子房が下の方にあり、基本的なつくりはヤマザクラと同じだ。

■タムシバ（田虫葉、匂辛夷）

野生では関西ではタムシバ、関東や北の方へ行くとコブシが一般的だ。花には芳香があり、葉っぱを噛むと少し甘い。噛む柴というところから名前がついた。



タムシバの花



雌蕊とへら状の雄蕊

花をアップして見ると、黄色いものとまん中のミドリ色の混合上のもがある。まん中は雌蕊（めしべ）で、何十本か螺旋状に集まっている。周りの黄色くなった所は1本1本が雄蕊（おしべ）で、雄蕊は横の所が割れて花粉が出る面白い構造を持っている。

■アセビ（馬酔木）

アセビは毒があり、血圧低下とか、腹痛、下痢、嘔吐、呼吸麻痺などを起こす。アセビの花の花びらは合弁で壺型になっている。中心部分に雄蕊と雌蕊があり、雌蕊の周りを10本くらいの雄蕊が取り囲む。下に棒状で先端に花粉の入っている袋、葯がある。先端部分に切れ込みがあり、孔が開いていて花粉が出る。



アセビの花びら

■コバノミツバツツジ（小葉の三葉躑躅）

コバノミツバツツジは西の方に多く、関東の方にはない。関東のはミツバツツジで葉っぱが少し大きく、種は全く違う。ツツジの花も合弁花だが、先っぽが分かれていて離弁花のように見える。中央部分の奥に斑点が点々とした蜜標（ミツヒョウ）がある。ミツを吸うためにハチが飛んでくる目印になる。中央部分に長い雌蕊が1本、周りを10本程の雄蕊が取り囲む。雄蕊の先に葯があり、先端に孔が開いて花粉が出る。花粉の出方はアセビと同じで、孔が開くので孔開型と言う。



花冠の斑点は蜜標

3. 春の雑木林で目立たない花

六甲山の雑木林を歩いていると、目立たない木がたくさんある、花の構造を見るなど、何か面白い特徴を少し掴まえ、知識に幅と奥行きを持たせてみたい。

■クロモジ（黒文字）

クロモジは他の木があまり葉っぱを広げていない時に花が咲くので、花は小さいが黄色いものとして目立つ。若い枝先は緑色で黒い模様がある独特の木の肌をしている。雌雄異株で雄の木と雌の木が分かっている。雄蕊の葯は、弁が開いて花粉を出す孔が開く。これは弁開といい、クスノキ科の特徴だ。



雄花：雄蕊の葯は弁開

■キブシ（木五倍子）

下の方へ行くとキブシは満開だが、花がいくつか連なって垂れ下がったような花序をしている。葉っぱは無いので、花かんざしみたいな状態になっている。キブシの実から黒い染料が取れ、昔はお歯黒に使った。雌雄異株で、雌の木と雄の木では開花時期がずれていて、遠い所の個体に花粉が付いて種の保存をするようになっている。



キブシ



オオバヤシャブシ

■オオバヤシャブシ（大葉夜叉五倍子）

ヤシャブシという木は、マツボックリみたいな実がなる。ゴツゴツしているのが夜叉に見たてている。ヤシャブシよりも葉っぱが大きいので、オオバヤシャブシという名前が付いている。雌雄同株、雌雄異花で、雄花の花粉が余所の雌花に付くようにする構造をもっている。空中窒素の固定能力があり、治山とか肥料の木として、六甲山にも植栽されている。

■ヒサカキ（桧）

早春の代表的なものの一つとしてヒサカキがある。これも目立たないので、花がいっぱい咲いている時でも見過ごすことがある。ツバキ科の木で、雌雄異株で小さい花を咲かせ、独特の匂いがある。

ヒサカキは神様の前にも、仏様の前にも供えられるのは、ちょっと不思議だ。



ヒサカキ



ウグイスカグラ

■ウグイスカグラ（鶯神楽）

ウグイスカグラは、スイカズラ科の木で、小さなピンク色の花がぶら下がり咲く。

無毛のウグイスカグラ、毛がいっぱいのヤマウグイスカグラ、粘々した毛のミヤマウグイスカグラの3変種がある。

■アケビ（木通、通草）

ツル性のもので、今日は花のつぼみがあったが、雌雄同株で雌雄異花だ。一つのツルから花の枝が出て、大きな花が咲くのが雌花で、小さな花がいくつか付いているのが雄花。雌花の方に小さいバナナのような赤いものがついていて、これがやがて太るとアケビになる。花が咲いていないと、見過ごしてしまいそうになる。



アケビ

■ウリカエデ（瓜楓）

ウリカエデは「瓜」の「楓」、これも二次林に多い。葉っぱの切れ込みが3つに分かれるのが多いが、1枚でペロンとしている場合もあり、いわゆるカエデ、モミジらしくない葉っぱをしている。雌雄異株で、カエデの実には翼果（よくか）といって、翼が出るのが特徴。春早く、咲く花は地味で、気がつく人は少ないかもしれない。



ウリカエデ

■コバノガマズミ（小葉莢蒾）

4月の末くらいに一般的な二次林でごくごくふつうに咲く。ガマズミの花は小さい花が集まって、葉っぱは対生（2枚左右に広がる）で、葉脈が平行脈でたくさん入っている。コバノガマズミは葉柄が短いのが特徴。



コバノガマズミ

まとめ(高橋さん)

ゴールデン・ウィークのころに、ぜひ歩いて花を見つけてください。近づいて花をよく見てみると、ちょっとずつ作りが違うので、印象が違って覚えやすいのではないかと思います。虫メガネなどで見る習慣をつけてください。

事務局より

六甲山では4月から6月にかけて、木の花を見ることが出来る。目を凝らしてみると、いろんな花を発見することができる。今後も、春の木や草花の鑑賞会を催していきたい。

◆参考・配布資料など

- ・パワーポイント：「六甲山で木の花を見よう」
- ・配布資料：「六甲山で木の花を見よう」
- ・パンフ：「ひとく手帳 2013 版」
- ・ひとく新聞 2013/3/15 号
- ・第37回市民セミナー報告書（講師：高橋 晃氏）
- ・マップ：六甲山頂・散歩道／まちっ子の森

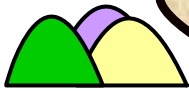
◆参加者の声（質問）

- ・ウグイスカグラの類似種を毛があるか、繊毛があるかと分ける。亜種や品種の分類はどうするのか。
- ・木を伐って光を入れるのは生物多様性を確保すると説明される。手を入れなかったら多様性は減るのか。

◆参加者：35名（50音順・敬称略、うち子ども2名）

池田 勝 泉 美代子 伊谷 正弘 井上 克孝
岡 敏明 岡本 正美 尾崎 尚子 加藤 香
河本 充子・裕三 久門田 充 小池 環 小手井 静子・智行 小谷喜代子・秀規 坂本 明子 里見 修
嶋田 念子 清水 和美 高橋 晃 田邊 征三
堂馬 英二 長江 昭一 南部 哲夫 西川 桂子
西山紀代香・武・弘 前田 秀二 丸尾 雅美
森 和美・崇子 森田 香代 柳田 千恵子

高橋 晃：たかはし あきら
兵庫県立人と自然の博物館 研究部長
〒669-1546 三田市 弥生が丘6丁目
電話：079-559-2001 FAX：079-559-2007
URL：http://hitohaku.io



第118回テーマ 六甲山上でキノコを調べる

- 六甲山上でキノコ調べ
- キノコの見分け方とコツ
- キノコを知ることの楽しみ



自然歩道できのこを採集

実施日：平成26年6月21日（土）
午前10時～午後3時00分
場所：六甲山自然保護センター、
まちっ子の森



講師：奥田 彩子さんプロフィール
1985（昭和60）年、伊丹市生まれ、宝塚市育ち、28歳。2008年、神戸女学院大学人間科学部環境科学科卒業、2010年、鳥取大学大学院農学研究科卒業。現在、化学メーカーの研究職。キノコの生態学が専門、兵庫キノコ研究会に所属してキノコの分類学・研究で活動。

まちっ子の森で初めてのきのこ採集

朝の記念碑台の気温は21℃で曇り、参加者は小学生4人を含む30名です。午前中、きのこ採集に28名が参加して、記念碑台から近畿自然歩道、まちっ子の森で活動しました。対象地域のきのこを本格的に調べるのは初めての試みです。

奥田さんはきのこの研究者

兵庫きのこ研究会の山上さんから若手で本格的にきのこを研究されている奥田さんを講師にご推薦いただきました。奥田さんは、大学は理科系を選んで植物の研究、そして山歩きできのこに出会って、鳥取大学の大学院で菌根菌を研究されています。いずれは動物の研究に向かうことも考えて、幅広い視点から知識や経験を深めておられます。きのこを研究して「わからないということがわかった」と、研究の奥深さを述懐されました。

きのこを知らなかった人にもやさしく手ほどき

午前中のきのこ探しでは、散歩道とまちっ子の森で約20種類のきのこを採取しました。標高が高く、明るくない環境なので、きのこの生育には不向きだということでした。参加者は地面を食い入るように探し、きのこを発見しては、質問していました。用意した採取用のカゴには、きのこが大切に保管されていました。

午後の講演は、きのこの研究に取り組まれた背景を自己紹介された後、スライドで、きのこの基本的な知識を解説されました。

冒頭で「きのこはなんですか？ヒトの仲間ですか、タンポポの仲間ですか？」と問いかけて、「どちらでもない。カビの仲間です。どちらかと言えば動物に近い」と意外性に関心を引き



ベニタケの仲間



キツネタケの仲間



カワラタケ？

寄せられました。「きのこは？」から「きのこの役割」「きのこの見分け方」と、きのこを見分けるポイントを次々説明されました。さまざまなきのこの例や、六甲山の再度山での調査についても紹介されました。

そして、午前中に採集したきのこについての解説です。同定されたのは、イボンシメジの仲間、ヒトクチャタケ、キツネタケの仲間、ベニタケの仲間、ウラグロニガイグチ、ニッケイタケ、サクラタケ、チチアワタケ、アシナガタケの仲間など9種でした。



ウラグロニガイグチ



クロチチタケ

きのこが森の植物を育てることに啓発された

当会が森の手入れをしている地域で、本格的にきのこ調査をしてみることに大きな期待をしていました。きのこが育つには不向きな環境であることや、きのこが植物を育てる働きをしていること、きのこが育つのは明るく開けた森が適することを知りました。きのこが森を再生する指標になるというのが大きな発見で、貴重な収穫でした。

参加の感想 春岡 和見（なごみ）さん

今日はきのこについてくわしく教えていただき、ありがとうございました。

私は今まできのこにあまり興味がなかったけど、六甲山できのこをさがして観察したのもっときのこを知りたくなってきました。次に本屋に行ったときに、きのこの本を買って、見つけたきのこが何というきのこかななどを調べてみたいです。

これから、六甲山について調べる活動には積極的に参加したいです。



【助成金をいただいている機関】順不同

兵庫県緑化推進協会、花王・みんなの森づくり活動助成、自然保護ボランティアファンド、イオン環境財団、大阪コミュニティ財団（東洋ゴムグループ環境保護基金）、セブン-イレブンみどりの基金

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：神戸県民センター、灘区役所、神戸市教育委員会



第118回テーマ：六甲山上でキノコを調べる



第118回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：10:00~10:10
2. 野外観察：10:10~12:00
3. 講演：13:00~14:40
4. 交流会：14:40~15:00

- 六甲山上でキノコ調べ
- キノコの見分け方とコツ
- キノコを知ることの楽しみ



自然保護センター前で参加者30名

講演の挨拶（奥田 彩子さん）

今回のスライドはきのこは何かという所から始まって、どういう風にきのこを楽しんでもらえるかを考えて作りました。きのこを詳しく研究してきたつもりですが、難しい話なるべくしないで話します。



奥田さん

講演内容

1. 六甲山できのこ調べ（午前中の活動）

■午前中は20種のきのこを採取

午前中、思ったよりも大型のきのこが採れました。数はありましたが種類は少なかったです。どういうところに生えているか、どういうきのこが生えているか、どういう形のものが生えているのか、だいたいわかってもらえたと思います。

2. きんこの見分け方とコツ

きのこはかびの仲間です。栄養を自分で作り出さず他の植物に頼っているので、動物に近いといえます。

■きのことは？

きのこというのは植物でいう花にあたります。胞子を作って増えます。本体は菌糸で、きのこというのは菌糸の一部です。胞子とは植物でいう種のようなものです。

■きのこの役割

動物や植物の遺骸を栄養源とする腐生菌、次は私が研究していた菌根菌で、植物の生きた根と共生が必要な菌です。これは植物が光合成で作った栄養源をきのこがいただいて、きのこから栄養源を分解しやすい形で提供します。最後に昆虫類に寄生する寄生菌です。植物に寄生するものもあり、漢方等で冬虫夏草といわれるものがあります。

●生態系のサイクルの分解を担当：きのこがなかったら、森の中は落ち葉とか枝だとかでいっぱいになり、植物が元気に育つことができない。昆虫に寄生する寄生菌は昆虫が増えすぎる密度を抑える役割をしています。

■きのこの見分け方

きのこの「傘」の部分、茎みたいところは「柄（え）」と呼びます。テングタケの仲間は柄の上の方に「つぼ」が付きます。「つぼ」があるかどうかできのこを見分けます。重要なポ

イントは下の方に「つぼ」が付くかどうか、「ひだ」になっているかどうか、「ひだ」が何色かということです。きのこを見る時に上から傘の色を見て見分けることが多いです。傘の色は変わるので、傘の色よりもひだの色の方が重要です。

傘の形がいろいろあります。よくあるのがくぼんだロート状になったものがあります。半円形、真ん中が深くなった円錐形、真ん中断面を切ってみないとわからないですが、「ひだ」の付き方です。ひだが柄に沿って直角についているか、上向きか、離れているか、下向きかなど、図鑑に書いてある重要な点です。

あとはきのこの生え方です。複数、何本か生えている時は、ばらばらに生えているか、集まって生えているか、輪になって生えているとか。木に生えるきのこ、サルノコシカケみたいなものが重なって生えているかどうかというのも重要です。

●同定のポイント：傘の裏を見る、ひだの形を見る、臭いをかぐ、（味を見る）、つぼ・つぼの有無を見る、どこから生えているか見る、傘の色は気にしない。

■変わったきのこ

●まん丸なきのこ：

ホコリタケ類、トリュフ類など。ホコリタケは丸の先つぼを押すとぱっと胞子が出てきます。トリュフは世界3大珍味のひとつで、地面の中に生えます。探すのに鼻が良いブタなどを使います。すごくいい匂いがするので、匂いを嗅ぎつけた動物が食べて胞子を運びます。

●木に張り付くきのこ：サルノコシカケは抗ガン剤にも使われる。アイコウヤクタケはきのこに見えないのですが、顕微鏡で見ると、菌糸の構造や胞子が見えます。中華材料でよく売られているキクラゲ（木耳）は木に耳のように付いています。

- お茶碗のような形で真ん中がへこんだきのこ：チャワンタケ類、お茶碗がいっぱい集まった形のアミガサタケはヨーロッパで食用にされています。
- 胞子が液状になるきのこ：いい匂いがしたり、臭い臭いがします。サンコタケやキヌガサタケはトリュフのようないい匂いがします。ハエとかが来て胞子を身体に付けて運びます。
- きのこから生えるきのこ：ヤグラタケは、ベニタケの仲間のクロタケから生えています。まさに、ヤグラの上にヤグラがある。
- 世界最大のきのこ：ナラタケは1個1個のきのこは5～8cmと小さいですが、きのこの本体の菌糸は地面の下を巡って、山が丸ごと菌糸で覆われています。
- 冬虫夏草：クモタケは、地面に巣を作るクモに寄生して生えるきのこです。ヤンマタケはトンボから生えるきのこです。トンボが生きている間から寄生し、ある日トンボが動かなくなったら、菌糸が身体の中でいっぱいになってこのきのこが生えてくるといわれます。

■食物としてのきのこ

- スーパーで売っているきのこ：シイタケが一番有名です。シメジは難しく、ホンシメジとして売られているのはブナシメジで、ブナシメジとって売られているのはヒラタケです。エノキダケ、マイタケ、ナメコがあります。
- きのこの迷信：色の鮮やかなきのこは毒きのこ、ナスとか銀のスプーン一緒に煮ると毒が抜ける、縦に裂くことのできるきのこは食べられる、毒きのこはナメクジや虫に食われない、というのは全部嘘です。きのこが食べられるか食べられないかというのは、一つずつ種類を覚えるしかありません。
- きのこの中毒症状：嘔吐、下痢、発汗、そして幻覚が有名です。興奮したり、腹痛、腎臓や肝臓の障害があります。最悪、死んでしまいます。中毒しないためには、確実に鑑定されたもの以外は食べない。きのこ採りでは有毒なきのこが混じらないように注意する。

3. きのこを知ることの楽しみ

■六甲山のきのこ

御影高校の生徒さんと一緒に再度山で調査をしています。六甲山でよく見られるきのこをまとめてくださったので、ベスト5を紹介します。

- ヒトクチタケ（一口茸）：マツの枯れた木から発生します。魚の干物のような臭いがします。裏の方に穴が1個空いていて、この穴から胞子を散布します。
- カワラタケ（瓦茸）：枯れた木から発生します。古くなると白くなります。白くなったのがありましたね。抗ガン作用が認められ、漢方薬として使われます。
- ツチグリ（土栗）：マツと共生して生きている菌根菌です。マツに栄養分を与えてマツから栄養分をもらっています。丸い形ですが、湿度が上がると外の殻が開いてきて、中の胞子が出てきます。
- ツガサルノコシカケ（樽猿腰掛）：サルノコシカケで有名なひとつで、針葉樹の枯れた部分から生えます。樹木の成分のリグニンを分解するので、褐色に腐らせます。抗ガン作用が認められています。
- マツオウジ（松旺子）：キノコ形のきのこで、マツの枯れた部分から発生します。梅雨から秋にかけて見られ、割と大型で高さは15cmほどになります。マツヤニのような独特の匂いがしますが食べられます。

まとめ（奥田さん）

六甲山ではマツと関係するきのこがよく生えています。これは、六甲山が里山として人間が利用していることを現していると思います。

きのこというのは半分名前がついていません。新種が毎週とか毎月とかどンドン発表される世界です。私はそういうところが面白いと思います。きのこの名前を自分で決めるといのは大きな魅力だと思います。わからないことが楽しいという、そういう魅力を感じています。

◆参考・配布資料など

- ・パワーポイント：「きのこについて」
- ・参考資料：おすすめしたいきのこ図鑑
『きのこ』／新装版山溪フィールドブックス、
『日本の毒きのこ／フィールドベスト図鑑、
『増補改訂新版 日本のキノコ』／山溪カラー名鑑、
『きのこ博士入門』
『兵庫のきのこ』／兵庫きのこ研究会編

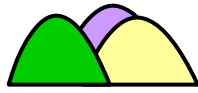
奥田 彩子：おくだ あやこ
兵庫キノコ研究会

◆参加者の声

- ・食べるきのこしかイメージに無かったのですが、きのこの種類の多さや、一見同じようなきのこでも、種類が違ったりと、きのこに対するイメージが大きく変わりました。（大西）
- ・いろんな形や色のきのこ、虫やカエルもいて楽しかった。
- ・きのこの種類が少なく残念でした。奥田先生にはいろんなことを教えていただいてありがとうございました。

◆参加者：30名（50音順・敬称略、子どもゴシック4名）

天野征一郎 伊谷 正弘 大西 拓也 岡本 正美 岡谷 恒雄
奥田 彩子 坂西 哲 坂本 明子 柴川 伸成 柴川ひろ子
柴田 昭彦 鈴木 紀生 鈴木 裕子 堂馬 英二 長江 昭一
南部 哲夫 原田 孝枝 春岡 和来 春岡 和見 福永 一登
藤田 修作 松井 照雄 松井 寧々 松井 羽奈 村上 定広
森田 香代 山内 里子 山下 博邦 横山 和子 好浦 和弘



3. 六甲山のくらし・学び

～生活文化と環境学習～

①人の集う場所（ところ） 六甲山

P 31～33



中村 圭志 なかむら けいし
『るるぶ六甲山』
創刊ディレクター
第110回市民セミナー講演
2012年6月16日

③六甲山があつて よかったね

P 37～39



加藤 智二 かとう ともじ
株式会社好日山荘
山岳ガイド
第116回市民セミナー講演
2013年10月19日

②ボーイスカウトの歴史 P 34～36



長 八州翁 おさ やすお
日本ボーイスカウト兵庫連盟
副理事長
第114回市民セミナー講演
2013年6月15日

④自然体験活動の価値と 可能性を考えよう！

P 40～42



岩木 啓子 いわき けいこ
ライフデザイン研究所 FLAP
代表
第119回市民セミナー講演
2014年8月16日

「六甲山物語4」の締めくくりは「3. 六甲山のくらし・学び」です。ここでは、六甲山の自然環境の楽しみ方を紹介する4話を集めています。

六甲山を知り尽くした中村 圭志さんは、六甲山の百科事典と絶賛されたヤマケイ『六甲山』の編集に関わっています。「人の集う場所（ところ）六甲山」をテーマに、昔の茶屋の復活への取り組みや、自然に溶け込んだ山の楽しみ方を紹介されました。

日本ボーイスカウトの長 八州翁さんは、野外活動の本家といえるボーイスカウトについて、体系だった解説をされました。「ボーイスカウトの歴史」をテーマに、ボーイスカウト運動の成り立ちや、ボーイスカウト運動の要点など、野外の団体活動を支える示唆に富んだお話です。

山岳ガイドの加藤 智二さんは、サンテレビの「山のぼり・大好き」に出演されるなど、安全登山の普及に励んでおられます。今回は「六甲山があつてよかったね」というテーマで、日本の山の魅力、六甲山の楽しみ方、山の道具の活用などを説明されました。

岩木 啓子さんは、自然体感を促進する環境学習の指導などで、広く活躍されています。第16回市民セミナー以来、10年ぶりの再登場をお願いしました。「まちっ子の森」での自然体験を試みていただきたいと要望して、「自然体験活動の価値と可能性を考えよう！」という意欲的なテーマで、「自然体感」のユニークな演習を披露していただきました。あいにく、台風の影響で野外に出られませんでした。屋内でも印象深い体験ができました。



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.110
ひとの集う場所 六甲山
中村 圭志
2012年6月発行



『るるぶ六甲山』情報版

第110回テーマ

ひとの集う場所 ^{ところ} 六甲山

講演

- ぼくのピオトープまたはテーマパーク 六甲山
- 聖地またはパワースポット
- 街に住み訪ねる場所としての六甲山



講師：中村 圭志さん プロフィール

1956(昭和 31)年生まれ。西宮市在住。雑誌(主に登山)ディレクター。高校、大学で登山を学び、卒業後山案内などの傍ら、登山雑誌『山と渓谷』に寄稿。後に「六甲山」に関わるガイドブック、雑誌を次々と創刊。趣味は酒類文化・軽音楽文化研究。登山歴は長い、登山家としての華々しい記録はない。山・街・人をつなぐ山カフェプロジェクト「六甲山カフェ」同人。

実施日：平成24年6月16日(土)
午前12時30分～午後3時
場 所：六甲山自然保護センター、
まちっ子の森

午前中は小雨の中で自然体験会

午前10時から12時半まで、14名が自然体験会に参加した。あいにくの小雨だったが、近畿自然歩道から“まちっ子の森”を散策した。

二つ池ではモリアオガエルの卵塊を調べ、雑木林ではマイウッドの様子を確かめた。行き帰りの道端にはコアシサイが満開で、足下をよく見るとアリマウマノスズクサも雨の中で輝いていた。

講演が始まった午後からは、風雨が一段と強くなっていった。



満開のコアシサイ



アリマウマノスズクサ

中村さんはまさに「六甲山人」

中村 圭志さんにお会いしたのは、2011年12月に開催した企画展「昔の六甲を知ってみよう! 3」の会場でした。まるで仙人のような風貌は印象深く、六甲山について幅広い知見をお持ちで、悠々と過ごされている雰囲気が漂っていました。登山ガイドブックの講師をお願いした前田康男さんは、六甲山の地図の監修をはじめ沢山の著述をされていること、特に2001年発行のヤマケイ関西『六甲山』の内容は「六甲山の百科事典だ」と絶賛されました。まるで六甲山の「生活誌」を広報されているようで、自由人然とした中村さんを「六甲山人・ろっこうさんじん」と呼びたくなります。

「六甲山に集い楽しむ」様々な動向

事前に「カフェのような講演にしたい」というご希望で、資料やシナリオを作らない試みになりました。冒頭で、「六甲山の茶屋や山に住む人、生活に関心がある」と述べて、少年期からの六甲山への関わりを紹介されました。震災後、『六甲山』の編集に携わって、六甲山の多彩な魅力を再発見し自分の拠って立つベースになっていると説明されました。

続いて、パワースポット六甲山として、癒しを求める時代

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

に六甲山はピッタリであること、「降っても晴れてもどっちも楽しもう」という自然に溶け込んだ山の楽しみ方を提唱されました。

終盤は街に住む人が訪ねる場所として、様々な活動を紹介されました。昔の茶屋を復活することにつながる「山カフェプロジェクト」の推進や、街中の山好き人間が経営する飲食店、六甲山をステージとする若者達の自由なイベントなど、楽しそうに話されました。

最後に、「六甲山のエエ話を広められたらいい」と締めくくって、早めに退出されました。異例のことですが、残った参加者で自己紹介や話題提供して交流しました。

「六甲山を楽しむ」素朴な視点

中村さんは、六甲山の様々な活動を広く紹介できる代表的な編集者です。「六甲山を楽しむ」という素朴なタイトルでくくっているのも特徴です。当会の活動を照らしてみると、狭く深くという傾向があり対局にあるように思われます。今回の講演で視野が開かれたような気がします。いずれにせよ、市民の自然資源を大切にしたいものです。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 西村 和美 さん

午前中の散策から参加しました。雨の時に山に来るなどしないので、新鮮な体験でした。モリアオガエルの卵も生で見たのは初めてで、池から拾ってもらい触ってみました。泡立ったコンニャクと言う感じで未経験の感触でした。



講師の先生は初めは近寄りやすい印象でしたが、講演を伺っていると、読書好きの穏やかな方で、山に関わることは、外向的なばかりでなく内側や小さなものに向き合う力も大事なのだろうと感じました。

【助成金をいただいている機関】

大阪コミュニティファンド(東洋ゴムグループ環境保護基金)、花王・みんなの森づくり助成、コープこうべ環境保護基金、兵庫県緑化推進協議会、自然保護ボランティアファンド



第110回テーマ：ひとの集う場所 六甲山



第110回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：12:30~12:40
2. 講演：12:40~14:30
3. 意見交換：14:30~15:00

- ぼくのピオトープまたはテーマパーク六甲山
- 聖地またはパワースポット六甲山
- 街に住み訪ねる場所としての六甲山



若者とすぐに親しくなる

講演の挨拶（中村 圭志さん）

豊中生まれの中村です。街からみた六甲山をテーマに山の本を作っています。

六甲山の茶屋や山に住む人、生活に関心があり、六甲山を活用する会の企画展や六甲山物語の村上茶屋の話にすごく『六甲山』※を手に中村さん親しみを覚えたことで、2012年4月発行の『るるぶ六甲山』（JTB発行）という本を題材に話をすることになりました



講演内容

1. ぼくのピオトープまたはテーマパーク六甲山

■ケガが六甲山に目を向けさせた

子供の頃、ボーイスカウトやYMCAで山歩きやキャンプをしていた。高校、大学で本格的に登山を始め、大学では年間100日くらい山に入る、厳しい登山をやっていた。卒業後「一生懸命やったことで何かでけへんかな」と、山旅して小屋を手伝ったりして生活していた。当時は高い山ばかり考えたが、その頃ケガのリハビリで六甲山を歩いて、こんな近くで低山ながら標高差900m、宝塚から須磨まで50数キロ、登山コースは100もあるすごい山やと再認識した。これはおもしろいと雑誌に投稿を始めた。だんだん仕事も増えガイドブックは50冊くらい出した。



白馬堂Rokko製作の「六甲山パノラマ手拭い」

■震災後、皆が六甲ってエエとこやなと再認識した

震災後「この場所からなんかでけへんかな」と、2001年に『六甲山』（山と溪谷社発行）という雑誌※を作った。地元の登山家、神鉄や阪急のハイキング担当、藤木九三先生の息子さん、モンベルの辰野さん、県立高校山岳部の連中、おばあちゃんクライマー、六甲山小学校の先生など地元の多彩な人がでてくる。それだけでなく六甲博物誌、山上の施設、有馬温泉、昔話、六甲の登山史など多彩で「震災後、みんなで六甲を通してもっかいがんばろうや」という本になった。これはよく売れ、皆の六甲山に対する想いで、六甲ってエエとこやなあと再認識した。これがぼくが拠って立つ

ベースになった。

■今、目的のない山旅を楽しむ

普段は単独行で目的なしに週3回くらい歩いている。歩いていてぱっと発見したのがものすごくインパクトがある。ごっつい岩。なんで丸いの？割れてるのは誰かが？それとも自然に？そんなことを興味深く見ている。しいていえば逃避。山は逃避なんかかな？街に住んでるからかなと思う。

2. 聖地またはパワースポット六甲山

■多難な時代に癒しを求める

母親の里が丹波、京都の山奥で子供の頃に見た日本の原風景～春になったら花が咲き新緑へと移っていく山里の風景を六甲山に行ったら思い出す。その原風景がこの山とぼくのつながりかなと思う。

その風景は癒しの空間でもある。調子が悪くても六甲山に登ると何か落ち着くことが多い。多難な時代に癒しの場所として六甲山に登る人も多いのではないかな。特に、女性は敏感で街に自分たちの居場所を探すと同時に六甲山の自然の中に入って行く。



六甲山を歩く山ガール / 『るるぶ六甲山』より

山ガールが六甲山でいち早くブームになったのも聖地での癒しを求めてではないかな。

■「雨奇晴好」で自然を受け止める

禅の言葉。本屋にも禅や癒し系の本が並んでいる。「降っても晴れてもどっちもいいね」、「気が滅入りがちな雨の日も、あるがままに景色を見ればいつもと違っておもしろい」。



これにちゃんと気づいて「雨を楽しもう」となかな「雨のシュラインロード33体仏かよい言葉が載っている。六甲山はこのことが自然に納得できる聖地ではなかるうか。

この境地で山を楽しみたい。このごろは登山も多様なあと思う。

■自然のエネルギーを受け取る

パワースポットに人気がある。山に入って自然の中で宇宙のエネルギーを皆が感じているのだと思う。隆起している山自体がパワースポットで、山上のナイトウォークでも暗い森の中をヘッドライトで歩いたり、ヘッドライトを消したりして山の精気を強く感じ取っているのではないかな。

3. 街に住み訪ねる場所としての六甲山

■山の茶屋を賑わいのカフェにしたい

六甲山には大正、昭和初期から茶屋がたくさんあったが、店主の高齢化でやる人が少なくなった。茶屋の衰退は寂しい。若い人が週末にでも手伝えないかと思って、山カフェプロジェクトを始めた。若い子が手伝うことで若い客が山にろっころ来るのを期待している。

音楽や書籍などがあり、コミュニケーションスペースにもなっているのが街のカフェ。カフェは山にあってもよいし山全体がカフェであってもよい。若いお客さんが昔からの年配のお客さんに山の話をお聴き、そういうのがもっと増えたらいいと思う。今数軒くらいお手伝いして、六甲山カフェ（屋号ではなくスタッフの総称）を作っている。山は自然がBGM。



六甲山カフェ／『るるぶ六甲山』より

■六甲山の伝統とつながる山カフェ

グループさん以後、ハンターさんやドントさん達が縦横無尽に六甲山を歩き、毎朝登って茶屋で休憩した。ここから毎日登山や茶屋も発展してきた。今も毎日登山が行われ、茶屋がその署名所になっている場合が多い。山の茶屋は人と人の交流の場でありカフェ感覚がある。山カフェも考えてみれば明治以来の六甲山の伝統だったのだ。

■街に下りて六甲山を語る

山の本なのに街場の山好きの人のお店を載せた。カトマンズカレー、シンズバーガー、いつじ青果など、山を下りてここへくると街場でもコミュニケーションができる。ザックを持ったお客さんを見たら店主が山の話をする。山登りしたことのないお客さんに「六甲はええねんで」と話をする



街場の山好きの店
／『るるぶ六甲山』より

と「今度連れてってえや」となる。

水道筋チンタ本店では、エンジン付き以外だったら自転車でもトレイルランでも何でもいから須磨～宝塚六甲全山縦走路を走って競争しようやというキャンノポールランを主催している。参加資格は自力で下山できる人で、降りるのも時間も自己責任でせえという割り切りや自由さがよい。

若者たちの自由なイベントが面白いので載せた。街でも六甲山との接点ができるのが面白い。

まとめ(中村さん)

「活用する会」の活動でいいなと思うのが学習くささがなく遊んでいる感じ。子供たちもある子はマイウッド、違う子は木の穴が目当てで来る。1つのテーマではないんやなあと思う。六甲山のメニューはいっぱいあっていいんじゃないかな。鳥、花、森、道づくり、山掃除など各人の目的はちがう。しかし一つの旗に集まるのはおもしろいなあ。その時は集まって、ばらばらに散ったとしても六甲山のエエ話を広められたらと思います。

出席者の意見交換

15時以前に中村さんが帰られ、残ったメンバーで交流した。地図に詳しい赤松さんから話題提供もあり、カフェの余韻が残ったようであった。



初参加の塚本さん 初参加の東條さん 地図の権威・赤松さん

事務局より

六甲山の茶屋に賑わいを復活させようとするプロジェクトの話をお聴き、まちっ子の森の雑木林復活や、自然を慈しむ心を育もうとする我々の活動との共通性を感じた。山カフェや摩耶山のリュックサックマーケットに集まる若者の心根も理解できる気がした。その心根を支えているのは都会での彼らのライフスタイルをうめようとする街場のカフェなど居場所でのつながりを求める心なのではないか。

◆参考・配布資料など

- ・パワーポイント：「るるぶ六甲山」
- ・書籍：『六甲山』『六甲山に行こう1、2』『るるぶ六甲山』など
- ・グッズ：六甲山土産「てぬぐい」

中村 圭志：なかむら けいし
〒662-0831

西宮市丸橋町8-11 テラスハウス・西2号
電話：0798-51-8166 FAX：0798-51-8167

◆参加者の声

- ・六甲山そして人との出会いを求めて参加した次第です。講師の中村さんの「編集者らしい」切り口で語られたセミナーも面白かったですし、雨で濡れてしまった靴やズボンも妙に心地よくて、大満足で家路につきました。(東條)
- ・「雨奇晴好」の相応しい気候に、六甲山を隈なく歩いた登山家の話を聞かせて頂き感激しました。

◆参加者：20名(50音順・敬称略)

赤松 滋 泉 美代子 牛飼 勇太 大武 圭介
岡井 敏博 岡谷 恒雄 尾崎 尚子 黒田 ちひろ
塚本 麻未 寺垣 耕平 東條 博 徳見 健一
堂馬 英二 中村 圭志 長島 武徳 南部 哲夫
西村 和美 前田 秀二 前田 康男 村上 定広



第114回テーマ ボーイスカウトの歴史

講演

- 現在のボーイスカウト活動の概要
- ボーイスカウト運動が誕生した経緯と歴史
- ボーイスカウト運動がめざすもの



講師：長 八洲翁さん プロフィール
1948年(昭和23)尼崎生まれ、65歳。大阪市在住。1960年(昭和35)ボーイスカウト尼崎第7団に入団。カブスカウト、ローバー隊長等を経て、現在団委員長。尼崎地区副コミッショナー、県副コミッショナー、指導者委員長、副理事長。日本連盟リーダートレーナー、中央名誉会議議員歴任。1971年(昭和46)定年退職後、大阪府立福井高校非常勤講師。



六甲山最高峰のボーイスカウト

実施日：平成25年6月15日(土)
午前10時～午後3時00分
場所：六甲山自然保護センター、
まちっ子の森

日照り続きに慈雨が降った

午前中の自然体験に16名が参加し、まちっ子の森と道端にコアジサイが満開の散歩道を歩きました。この1ヶ月は雨が降らず、翌日に予定している二つ池でのモリアオガエルの観察会がどうなるのか心配でした。午後からの市民セミナーで屋根を打つ雨の音が大きくなりました。抑えられていたモリアオガエル産卵活動が活発になるので、安心しました。

ボーイスカウト50年の長さん

講師の長さんは子どものころからボーイスカウトで、続けるために教員になったとのこと。平成元年2月の昭和天皇の大喪の礼にはボーイスカウトの兵庫県代表として参列されました。現在も、ボーイスカウトの要職を歴任されています。講演では礼儀正しく、「よりよい社会人」のモデルのような印象です。ボーイスカウトグッズの数々が披露され、100年以上の歴史や教育理念などをお話いただきました。

ボーイスカウトはアウトドアの本家本元

1908年にイギリスで始まったボーイスカウト運動は、現在世界116か国が世界機構に加盟し、3,000万人が登録されている。日本が属すアジア太平洋地域は1,600万人、大きなスケールの組織など、概要から説明された。創始者のベーデン・パウエル(B-P)氏の数々のエピソードや、ボーイスカウトの野外活動による青少年教育と、背景にある精神について、写真を交えて次々と語られた。

1907年のブラウンシー島での実験キャンプが発端で、翌年出版した『スカウティング・フォア・ボーイズ』がベストセラーになり、イギリス中でボーイスカウトが組織化された。

1910年にアメリカで組織化され、日本でも1920年代



実験キャンプのブラウンシー島

初めに組織化されている。

小学校6年生から中学校3年生を対象にした「ボーイスカウト」から、上下に年齢層が広がって、ビーバースカウト、カブスカウト、ベンチャースカウト、ローバースカウトの5部門になっている。

野外でのハイキングやキャンプ活動を手段として、「青少年自らが考え、そして判断できる、そして行動できる人となる」ことを目指し、「ちかい」や「おきて」などの精神も浸透させている。「来た時よりも美しく、残すものは感謝のみ」や「自然は祖先からの遺産ではない。子孫からの借り物である」という言葉はまさに至言といえます。

野外の体験学習の原点を学んだ

ボーイスカウトの名前はよく知っていますが、今回ボーイスカウト運動の原点や発展の経緯、そして野外教育の理念や精神などをご紹介いただきました。アウトドアの本家本元だと自負されるだけあって、多くの示唆を与えていただきました。野外活動で健全な青少年を育成するという課題を改めて考えました。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 山本 雅子 さん

お誘いを受け軽い気持ちで参加してしまいましたが、今回のセミナーはボーイスカウトのお話で、主人もボーイスカウトで育った一人なので、私も共感しながらお話をうかがい勉強になりました。六甲山を守ろうと活動をされていることを知り、実際山に入ると貴重なモリアオガエルの卵を見たりと、普段は六甲山のふもとで山を眺めているだけの私ですが、山に触れ六甲山の魅力を間近で感じ、まさに再発見でした。有難うございました。



主催：六甲山を活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】
兵庫県緑化推進協会、花王・みんなの森づくり活動助成、
阪急阪神 未来のゆめ・まち基金、自然保護ボランティア
ファンド



第114回テーマ：ボーイスカウトの歴史



第114回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：10:00~10:10
2. 野外観察：10:10~12:00
3. 講演：13:00~14:30
4. 交流会：14:40~15:00

- 現在のボーイスカウト活動の概要
- ボーイスカウト運動が誕生した経緯と歴史
- ボーイスカウト運動がめざすもの



持参されたケンジ・クレヨン

講演の挨拶（長 八洲翁さん）

六甲山は活動と教育の場です。ボーイスカウトの活動を知っていただき、六甲山でボーイスカウトの子どもに会われる時に、どんな教育を受けているのかをわかっていただけたらと思います。



正装の長さん

講演内容

1. 現在のボーイスカウト活動の概要

■六甲山は活動の場、教育の場

所属はボーイスカウトの尼崎7団で、50年前からやっている。六甲山系に親しんでいるが、最近は勝手にキャンプができなくなっている。

ボーイスカウトは、30年前に「六甲山を緑にする会」から植林の協力を依頼され、登山口で木の苗を配るなど、六甲山を緑にする奉仕をさせていただいている。昨年11月に阪神北地区で六甲全山縦走大会を催した。約52キロを年長者と年少者が励まし合い完走した。六甲山は活動の場になっている。

■ボーイスカウトの創始者と制服

ボーイスカウトをつくった方は、ベーデン・パウエル（B-Pと略す）です。

私も制服に衣装替えしましたが、カーキ色で左胸に記章が付いている。世界的にも色やデザインが少し違っても、ネッカチーフをして



ベーデン・パウエル

■世界の組織と活動

世界中に3,000万人、一番多いのはアジア太平洋地域で1,600万人のボーイスカウトがいる。スカウト活動のないのは、アンゴラ、中国、キューバ、北朝鮮、ラオス、ミャンマーの6か国で、116か国が世界スカウト機構に加盟し、事務局はジュネーブにおかれている。世界を6つの地域に分け、日本はアジア太平洋地域に属している。

3年に1度の世界スカウト会議、1年に1度以上の世界スカウト委員会、4年に1度の世界ジャンボ

リーが開催される。

■日本のボーイスカウト

2015年には山口県のきらら浜で第23回世界ジャンボリーが開催される。日本のボーイスカウト人口は、今年の3月31日で134,138人、兵庫県内では7,755人いる。多い時から半減している。

■5つの部門

年齢的に5つに分けて「夢と冒険心を満たすプログラム」を盛り込んで一貫教育している。



【ビーバースカウト】幼稚園年長から小学校3年生までの児童で、活動は戸外を中心とした集団での遊び。

【カブスカウト】小学校3~5年生で、戸外を中心としたしつけと訓練。小さなグループでの活動を通じて、社会人としての基本を身につける。

【ボーイスカウト】小学校6年生から中学3年生、もともとはこの年代の少年達から始まった。野外を中心とした体験学習で、ハイキングやキャンプを行う。自主運営のグループの一員として、自らの判断と行動により、社会人としての資質の向上を図るのがねらい。

【ベンチャースカウト】高校生年代の少年、自発活動、自己目標で、プロジェクトを成し遂げて、達成した喜びや満足感を得るのがねらい。

【ローバースカウト】18歳以上25歳までの大学生年代で、指導者・準指導者として高度な野外活動に取り組み、地域での奉仕活動で貢献する。自己開発とロックワイド（広く世界を見よう）をねらいにする。

■スカウト章

日本のマークは真ん中に鏡があり、ユリの花卉3つを束ねている。棒は人生の進むべき方向を指すコンパス。2つの星は観察と推理の眼、束ねたベルトは友情を意味している。帯には「そなえよつねに」というモットーが書かれている。

ロープの結び目は「日々の善行」を意味している。



世界のスカウトマークは、ユリの花弁が3つ、友情の意味で束ねている。そして観察の眼とコンパスがある。



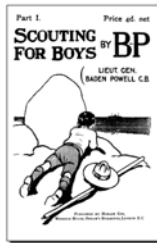
2. ボーイスカウト活動誕生の経緯と歴史

■スカウト運動の創設

スカウト運動の創始者ベーデン・パウエルは1857年(安政4年)にイギリスで生まれ、19歳で陸軍士官として海外に駐屯した。斥候術の本を書いて陸軍中將で退役した。斥候術の本は青少年に読まれてベストセラーになった。イギリスに帰国すると国が荒れて不良少年が目立っていた。これを非常に心配したことからボーイスカウト運動が生まれた。

■ブラウンシー島の教育キャンプ

1907年にブラウンシー島で、20名の少年達と共に8日間の実験キャンプを行った。その結果をもとに『スカウティング・フォア・ボーイズ』を出版した。それを読んだ少年達が自分たちでボーイスカウトごっこを始め、1908年には、イギリスでボーイスカウトが組織された。



■アメリカでの組織化

アメリカの出版業者ボイス氏がロンドンで道に迷った時に、ボーイスカウトの少年から善行を受けて感動した。この「アンノンスカウト」のエピソードと、ボーイスカウトの活動を紹介したことから、1910年にアメリカで組織化に発展した。

■B-Pが受けた3つの感銘

B-Pがボーイスカウトをつくる時に3つの感銘を受けたといわれている。

【ペスタロッチ】教育者で、「すべては他人のために、彼自身は何ものもとらず」という言葉。

【マリア・モンテッソーリ】幼児教育で有名な医者で縦割り教育を始めた。異年齢の子どもたちの集団で影響し合うという考え方を採り入れた。

【日本の茶道】千利休などいろんな教えがある。精神と行動を備えて茶道の中に生きている。

■日本での組織化

B-Pは1911年に、英国王ジョージ5世の戴冠式で、乃木希典と東郷平八郎に会っている。1912年にはアメリカ経由で日本を訪問した。1913には少年団が発足した。1921年に皇太子が英国エジンバラでボーイスカウトをご親閲されてつぶやかれた一言が、組織化に発展するきっかけとも言われる。

3. ボーイスカウト運動がめざすもの

■ボーイスカウト運動のねらい

「社会から信頼されるよりよき社会人の育成」と「自分で考え、自分で判断し、自分で実行し、自分で評価する」、そして「人格を高める健康づくり、技能の獲得、奉仕の実践」になることを目指している。

■3つの「ちかい」

「神(仏)と国に誠を尽くし、おきてを守ります。いつも他の人々を助けます。からだを強くし、心をすこやかに、徳を養います」という3条を誓っている。そして、「スカウトは誠実である」など、8つの「おきて」を実践している。



■スカウト運動を支える組織

班・組が集まって自治を支える1つの隊ができる、5つの隊が集まって団ができている。団が集まって地区になり、兵庫連盟は10地区が集まっている。それをまとめているのが日本連盟。そして、アジア太平洋地域、世界スカウト機構となっている。

まとめ(長さん)

教師になって学校教育の中で応用できたことがある。ボーイスカウトの眼で見て、一人ひとりに温かい目を注ぐことが必要だと思う。

事務局より

アウトドアの本家の100年以上も続く活動に触れることができた。野外の体験活動は「全人教育だ」という感を強めることができた。

◆参考・配布資料など

- ・パワーポイント:「ボーイスカウトの歴史」
- ・配布資料:「ボーイスカウトの歴史」
- ・ボーイスカウトグッズの数々:
宇宙飛行士・野口聡一さんが作ったワッペン。コレクションの「ケンジ・クレヨン」など

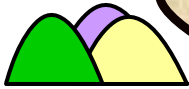
長 八洲翁:おさ やすお
日本ボーイスカウト兵庫連盟 副理事長
〒555-0001 大阪市西淀川区佃 2-5-24-910
電話:06-6473-5525 FAX:06-6473-5525
E-mail: yasuoosa@aol.com

◆参加者の声(交流会)

- ・高校野球でブラカードを持って出ていないようだ。
- ・最盛期の昭和58年から3分の1に減っている。ボーイスカウト以外にアウトドアをやる所が増えた。
- ・子どもたちが軟弱化している。頭と身体両輪を使ってフィールドワークできる子が必要だ。
- ・B-Pはボーイスカウトを学校教育用につくった。

◆参加者:18名(50音順・敬称略)

天野征一郎 泉美代子 伊谷正弘 岡敏明
岡本正美 岡谷恒雄 長八洲翁 尾崎尚子
高橋貞美 田邊征三 徳見健一 堂馬英二
村上定広 森地一夫 柳田千恵子 山下博邦
山本浩介・雅子



「すぐまや」の素朴な道標

第116回テーマ 六甲山があってよかったね

- 六甲山 私の味わい方
- 基礎を学ぼう 登山学校
- 快適・安心の登山用具



講師：加藤 智二さん プロフィール
1960年(昭35)東京都生まれ、灘区在住53歳。公益社団法人日本山岳ガイド協会 認定山岳ガイド。社会人山岳会に入ってから本格的に登山を開始、海外登山・冬山登山や岩登りも行うが、植物・地質など自然全般を観察する広範囲な登山を目指している。国立登山研修所講師、日本山岳ガイド協会などに協力、登山普及活動もしている。<主な海外山行>ガッシャーブルムII (8,035m) チョーオユウ (8,201m) チョモランマ・サガルマータ (8,848m)

実施日：平成25年10月19日(土)
午前10時～午後3時40分
場所：六甲山自然保護センター、
まちっ子の森

天候を心配しつつ、14名の参加で楽しんだ

朝の記念碑台は小雨交じりの曇りで、気温は13℃と肌寒いでした。降雨の予報で参加者が減り、午前中は12名でシュラインロード分岐まで「散歩道」をゆったり散策しました。午後は14名で、親しみながら講演に参加しました。

ヒマラヤ登山や山岳図書の蒐集なども紹介

加藤さんは経験豊富なプロの山岳ガイドです。1980年代に20歳代で3度もヒマラヤの8,000m峰に登っておられます。現在は登山用具のパイオニアの好日山荘で、登山学校の運営に携わって、初心者や非組織者の安全登山を普及する窓口にしようと尽力されています。

ヒマラヤ登山を通じて山の石に興味を持たれ、登山技術の古典をはじめ、六甲山を知るための登山書、地図、資料なども集めておられます。探求心が旺盛で、知識・見識を伝えることにご熱心です。「自然に親しむとか、自然に遊ばせてもらうという感覚が好きだ」とのことです。

登山学校の運営や登山用具の解説が好評

講演の冒頭は、3回のヒマラヤ登山の体験談です。壮大な風景を目にしなが、死に損なったことなどもさらっと話されました。当時の服装や道具、ポーターとの関わりなど印象深い話です。そして、20年を経た現在の登山のスタイルが大きく変化していること、日本の山・自然の魅力を強調されました。

プロの山岳ガイドになって14、5年。登山の世界も変化しています。日本山岳ガイド協会が公益社団法人になり、事業として安全登山の普及に力を入れています。そこで、『百万人の山と自然講座・登山基礎』を出版することになり、加藤さんは執筆者となり、全体の校正を行われています。

好日山荘では、初心者や非組織者に登山技術や安全登山を普及する窓口として、登山学校を設置しました。その教材はガイド協会の『登山の基礎』が柱です。加藤さんはその中心になって、登山の安全を講義し、山と一緒に歩かれています。

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

六甲山は自然に親しむ山と考え、近代登山発祥の地としての六甲山にも関心を高め、古い書籍や地図などを蒐集されており、貴重な資料も持参して紹介されました。

終盤は予定時間を超えて、持参された山の道具を解説されました。道具の使い方やタイミング、道具の限界を知ることや、使い手のマナーの大切さを説かれました。LEDランプやハイドレーション(水タンク)などの使い方のポイントを懇切に教えていただきました。



登山学校(氷ノ山)

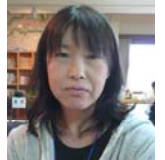
六甲山の地道を歩く楽しみを見直したい

プロの山岳ガイドが安全登山を普及されているのに敬服します。「散歩道」を初めて歩かれたとの感想にも驚き、六甲山の地道をゆっくり味わう楽しみ方を再発見しました。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 石堂 博子 さん

今日は加藤智二さんの講演「六甲山があってよかったね」が聞きたくて来ました。午前中は自然保護センター周辺の散歩道、まちっこの森、野仏などを六甲山を活用する会の皆さんに解説をしていただきながら2時間くらいゆっくり散策しました。ササ刈り、馬酔木の伐採、木の柵の設置など、行政や土地所有者との根気強い交渉、大変な労力の提供・感謝の気持ちで一杯になりました。加藤さんの講演は特に登山用具のお話が興味深かったです。ありがとうございました。



【助成金をいただいている機関】

兵庫県緑化推進協会、花王・みんなの森づくり活動助成、
阪急阪神 未来のゆめ・まち基金、自然保護ボランティア
ファン



第116回テーマ：六甲山があってよかったね



第116回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：10:00~10:10
2. 野外観察：10:10~12:00
3. 講演：13:00~14:50
4. 交流会：15:10~15:40

- 六甲山 私の味わい方
- 基礎を学ぼう 登山学校
- 快適・安心の登山用具



好日山荘の登山学校

講演の挨拶（加藤 智二さん）

登山の技術とかいろいろな所でお話しています。今日は最も話にくい、自分のこともお話しします。六甲の近くに住む縁があって、六甲山のこともっと知りたいと思うようになりました。



加藤さん

講演内容

1. 六甲山 私の味わい方

■1980年代にはヒマラヤ体験

私がヒマラヤに最初に行ったのは1984年で、まだヒマラヤが面白かった。中国とパキスタンの国境にあるガッシャーブルムⅡ峰(8,035m)に4人の登山隊で行った。氷河が削っていった石に興味を持った。斜面を滑り落ちて死に損なったりした。荒涼としたヒマラヤと日本の山は空気が違った。空気が乾燥して緑がないので、日本の山に帰って、腐植土や葉っぱの匂いにほっとした。



ガッシャーブルムで

1987年、27歳の時に中国のチョー・オユー(8,201m)に行った。頂上は野球ができるくらい真っ平らだった。日本の冬山装備が全て通用した。

1988年にネパールのエベレストに行った。アイスフォールはルートの難所になっていた。

最近は頂上に100人も200人も登るようになり、金と時間と酸素があれば誰でも登れると言う人もいる。

■登山から興味を広げた

山の上に白い石や固いチャートがあったら、昔はどこにあったかを考え、かつて海でできたことがわかってきた。『日本の地形と地質』や『地質百選』とかを買い求め、中央構造線沿いの山に登った。今も山に入ったら必ず石の写真を、周囲の様子がわかるように撮ってくる。岩場に行くと、この岩はどこから来たのかなと考えながら登ることが多い。



山で拾った石

■阪神大震災当日から山麓の鶴甲に在住

1995年1月16日、前職を辞めて九州から車で夜中中走って、2時に鶴甲の団地に着いた。何も無い部屋に寝袋を敷いて寝ていたら地震がきた。17日は初出社の日だったが、電車に乗れなかった。

しばらくして連絡すると「死んでいるのかと思った」と言われて、歩いていくと電車が動いていて、デパート地下の食品街がふつう通りだった。鶴甲住まいの初日は大変印象が強い。

神戸に住んで六甲山を良く歩いている。トレーニングするにはけっこう良くて、鶴甲から油コブシを登ってアイスロードを下るとか、油コブシを道路まで出たらまた帰るとか、毎日登山ほどはできないが、思いついた時にやっている。

2. 基礎を学ぼう 登山学校

■山岳ガイド協会が「登山の基礎」を出版

私が山岳ガイドの仕事をして14、5年になる。今は公益社団法人日本山岳ガイド協会の傘下の下部組織の日本プロガイド協会にいる。公益社団法人になったので、安全登山を普及するために、最低限これだけは知っておこうという『百万人の山と自然講座・登山基礎』を出版した。私も執筆者になり、本の校正はほとんど自分がやった。この本の第1章は「山登りの楽しみ方」とした。



『登山の基礎』を出版

■好日山荘で登山学校に携わる

組織やクラブ・同好会に入っている人は本当に少ない。非組織の方もいて、「好き勝手に登ったらいい」という時代になっている。事故は必ず起きるが、初心者が学ぶ所は無いため、そのような人達の窓口になる登山学校をやることになった。

好日山荘の登山学校は、ガイド協会の『登山の基礎』を教科書として導入して、登山の安全の講義をしたり、一緒に山歩きしながら登山に関することを説明している。たとえば、歩き方とか歩くスピードとか、自分の体調管理など。心拍数をコントロールし、水分も適切にこまめにとりましょうとか、食べる物を適切にこまめにとりましょうとか、言っている。

六甲山でもけっこう遭難はある。私たちは怪我の防止もする、自分の足で帰りましょうと。六甲山は散歩みたいに自然を楽しむ山だが、雨風を避ける知恵も必要だし、道具も必要になる。自然の中で遊ぶスポーツだから、自然と対峙するとか征服するという言葉は仰々しい。個人的には遠征という言葉は嫌いだ。日本人の感覚からすると、自然に親しむとか、自然に遊ばせてもらうという感覚とかが好きだ。

3. 快適・安心の登山用具

■好日山荘は登山用具のパイオニア

サンテレビで六甲山のいろんな所を紹介したり、歩いたりした。近代登山の発祥の地を現地に確かめている。好日山荘は、1924年に西岡一男さんが山道具を輸入しようとして看板を上げて、来年90周年になる。今私がいる好日山荘は商標を持ち主から引き継いでいる。古いものを尊重する気持ちが出て来て、ちょっと古い六甲に関するものを自分の手元に集めるようになった。



RCC III報告書

岩登りの本を読んでみると、昔の人は技術だけでなく感性が入っていて面白い。好日山荘の昭和6年のガリ版刷りのカタログには「正直であること」「良品を揃えるべきこと」と結構気合いが入っている。



好日山荘カタログ

■最近の登山用具いろいろ

道具さえあればいいというのではなく、道具はあくまでも人間のサポートをするだけだから、使い方や使うタイミングを間違えない、道具の限界を知ることが必要だ。

- 軽合金のカラビナ**：約2トンを超える強度がある。しかし、開いてしまったら200か300キロの力ですぐ壊れてしまう。
- LEDのヘッドランプ**：球の明るさは35～200ルーメンの範囲。ルックスは部屋の明るさを現す。夜目で慣らしてヘッドランプは暗くして使うのがコツ。必要な瞬間だけ明るくする。
- ゴアテックスのレインウエア**：洗って汚れを落とす。汗は液体なので、温めた方が水蒸気(気体)として放出しやすい。生地の水蒸気維持が大切。
- ハイドレーション**：リュックサックに背負ったままで、吸口から吸える水タンク。24時間で体重×



軽合金カラビナ



LEDヘッドランプ



ゴアテックスウエア

15CCを「不感蒸泄」しているので、適切な水分補給をするのに有効。

- 救急用具**：毒虫の毒を吸い出す注射器、伸縮が無く固定できるテーピング・テープが便利。
- トレッキングポール**：公共の乗り物に持ち込むマナーが必要。3つ折り式はリュックサックに収められるので重宝。
- ダウンジャケット**：非常にコンパクトで夏山にも持って行く。きれいに洗うと元に戻る。
- コンロとガスカートリッジ**：小型の燃焼機器でケースに全部入ってしまう。
- アミノバイタルやサプリメント**：晩ご飯を食べてから飲んで寝た方が、次の朝早く回復する。



ハイドレーション



トレッキングポール



ダウンジャケット

質疑・応答

- 「山を征服するという違和感」という話に共感した：

僕たちが登る時は自然の条件が良い時だ。厳しい自然に対して謙虚さをもっていった方が良い。

- 参加しない方が良いツアーは？**：

好日山荘は認定ガイドをつけている。ガイドが競争し質を高める。ガイドの催行人数の多いのは心配。

まとめ(加藤さん)

六甲山の写真も、アリマウマノスズクサの名前もそうですが、交流することで知的刺激を受けて、いろんな勉強を試みようという気になりました。知っていることをさらに伝えていきたい。

事務局より

プロの山岳ガイドの加藤さんと一緒に「散歩道」を散策しました。道端のアリマウマノスズクサに感動されたので、クライミングに加えて素朴な山歩きの楽しみ方も達人だと思います。「散歩道」は初めて歩かれたとのことで、登山者にもドライブウェイでなく「散歩道」に馴染んでもらう必要を痛感しました。

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ：「六甲山があつてよかったね」
- ・講演補足資料：写真各種
- ・図書など：『登山〈基礎〉』／日本山岳ガイド協会編
- ・参考資料：『RCC 報告書III1929』他、山岳図書など
- ・記念品：ヒマラヤ山頂の石
- ・登山用具：最近の登山用具各種

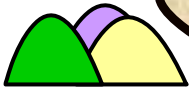
加藤 智二：かとう ともし
山岳ガイド
〒657-0011 神戸市灘区鶴甲 4-1-8-105
電話：078-856-2462
E-mail：katomoji@gmail.com

◆参加者の声

- ・個人の経験、趣味を交えられ、おもしろかった。
- ・昔の六甲山の写真等を見られておもしろかった。
- ・朝の散策は初めての道で、色々植生も見られた。
- ・六甲山にある野仏など、もっと市民に知らせたい。
- ・最後に話された登山用具のお話がためになった。
- ・山岳ガイドの仕事の実情も聞いて参考になった。
- ・プロの山岳ガイドの経験と見識の深さを知った。

◆参加者：14名(50音順・敬称略)

石堂 博子 泉 美代子 大上 政雄 岡本 博樹
岡本 正美 岡谷 恒雄 加藤 智二 兼貞 力
日下部 亜古 柴田 昭彦 徳見 健一 堂馬 英二
村上 定広 柳田 千恵子



レクチャールームで演習

第119回テーマ 自然体験活動の価値と可能性を考えよう!

- 「まちっ子の森」での自然体験
- 自然体験活動の価値と可能性についての意見交換
- 自然体験活動の意味と進め方のポイントについてのお話

実施日：平成26年8月16日(土)
午前10時～12時00分
場所：六甲山自然保護センター、
記念碑台



講師：岩木 啓子さんプロフィール
1956(昭和31)年生まれ、57歳、東京都出身。東灘区在住。1979年お茶の水女子大学家学部食学科卒業。生化学工業(株)、生活協同組合コープこうべ勤務を経て、1999年にライフデザイン研究所FLAP設立し、現在に至る。仕事のキーワードは「参画」「協働」。参加参画によって新たなくらしや地域、社会を創造していこうという人や場の支援が中心業務。

天候悪化のため、セミナーを中断

自然保護センター前のケヤキの大木が傾くなど、11号台風の被害を随所で目にします。天候不順ですが、午前中は曇りという予報で決行しました。記念碑台は濃い霧で風が強く、気温は2.2℃と肌寒いです。そんな中でびかびか隊など27名が参加しました。



台風で傾いたケヤキ

午前中はまちっ子の森での自然体験をやめて、屋内での演習に切り替えました。風雨が強くなり、帰りのドライブウェイの通行が心配になったので、昼食時でセミナーを中止しました。12年間のセミナー開催で初めての出来事です。

岩木さんに10年ぶりのお願い

岩木さんは環境教育や地域活動の指導者養成などでご活躍です。当会では、2004年6月19日の第15回市民セミナー「六甲山と環境教育～フィールドとしての六甲山の可能性を考えてみよう～」でご指導いただきました。これが当会の環境学習への前進にもなりました。

それから10年、当会子ども環境学習を実践しつつ、まちっ子の森周辺図「まちっ子の森」を創出しました。この六甲山上の貴重な自然体験のフィールドを活かすことを、岩木さんにご賛同いただきました。今回のセミナー開催に際しては、度々現地を下見して、万全の準備をしていただきました。

屋内での自然体感、五感を使うことを触発

まず、セミナールームで自然体感のワークをしました。五



まちっ子の森周辺図

感をひらくウォーミングアップです。参加者は車座になって目を閉じて、いろんな「もの」を包んだ紙ナプキンを渡されました。「視覚以外の五感を使って、ものと出会ってください」という指示を与えられました。皆さん真剣な様子で、各人各様に「もの」と出会う姿を見せていました。五感を使うことを忘れがちに自分に気づく人が多く、五感をはたらかせるという、自然体感の第1段階に熱中しました。

野外は風雨が強くなり、記念碑台でできる範囲でワークすることに絞りました。次は、卵ケースを渡されて自然の物集めです。雨の記念碑台広場で、該当する物を集めました。出かけたまま戻りが遅い人もいて心配しました。



風雨の記念碑台で物探し

集めた物をお互いに披露し感想を紹介し合う場面は、笑いで賑わいました。3つ目のワークは、集めてきた物の中から木の葉っぱを取りだし、スライドの枠で木の葉っぱを透かして観る「リーフ・スライド」です。普段目にしない鮮やかな葉脈などが見え、視覚をはたらかす大切さを触発されました。演習が盛り上がったところで中断しました。

後日、「まちっ子の森」の自然体験活動を考察

予想外の事態で、予定のプログラムの半分も遂行できませんでした。参加者と一緒に「まちっ子の森」を活用する案を出す、という目的には到達できませんでした。

セミナーを終えて2週間後に、岩木さんと報告書づくりを検討しました。運営する立場から見た当日の概況、天候が良かった場合に予定した内容、そして「まちっ子の森」を活かす案など、原稿書きもお願いしました。

岩木さんにはどっぷりと当会のペースに浸っていただきました。「まちっ子の森」活用を新たに展開するお力添えを期待しています。また自然体験のリベンジをしたいですね。

【助成金をいただいている機関】順不同

兵庫県緑化推進協会、花王・みんなの森づくり活動助成、自然保護ボランティアファンド、イオン環境財団、大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、セブンイレブン記念財団

主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：神戸県民センター、灘区役所、神戸市教育委員会



第119回テーマ：自然体験活動の価値と可能性を考えよう！



第119回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：10:00~10:10
 2. 屋内活動：10:10~12:00
- ※野外活動は雨天のために中止。
セミナーは午前で終了。

- センター内外での自然体験
- 今日の体験から自然体験活動を考える
- 自然体験活動の意味と進め方（講演後の所感）



8月20日にケヤキは伐採された

講演の経緯（岩木 啓子さん）

■大変な悪天候に予定変更で実施

台風による土砂崩れで表六甲ドライブウェイが通行難となる中、迎えた8月16日。曇のち弱雨との予報だったため、予定通り開催ということになり、参加者も集まり始めました。ところが、記念碑台周辺は濃い霧に包まれ、木々が折れそうなほどの風。岩木さん開始時には横殴りの雨まで降って来ました。



岩木さん

当初の予定では、午前中に五感をフルに使ってまちっ子の森で自然と触れ合い、その体験をベースに、午後は自然とかわるごとの価値やすばらしさ、まちっ子の森の活用方法について意見交換する予定だったのですが、お天気には勝てず、予定していたフィールドワークは断念。会場内と近隣を使って可能な範囲の活動を行うことになりました。

講演内容

1. 自然保護センターの内外で自然体験

■五感をひらくウォーミングアップ

まずは、五感をひらくためのウォーミングアップ。輪になって座った参加者の手の上に紙ナプキンに包まれたいくつかの「もの」が置かれます。参加者は目を閉じたまま、視覚以外の五感を総動員して、その「もの」と出会い、知り合うというワークです。

神妙な顔で手の中の「もの」を触ったり、においをかいだりする様子が見受けられます。しばらく時間をかけて、十分に「もの」と知り合ったと感じた後、目を開けて近くの数人と感想を出し合いました。自分がどんな風に「もの」と出会おうとしたのか、「もの」とかわるにあたって五感をどう使ったのか…。あらかじめ「五感をフルに使って…」と伝えられていたにもかかわらず、味覚までは使わなかった人が大半。触ってはみたけれど、それ以上の五感を使わなかった人やそもそも「もの」の包まれていた紙ナプキンを開くことさえ躊躇した人も。

ことほど左様に、日常、私たちは五感を十分に開かず、自分に制限をかけて暮らしているのだ、と痛感させられました。また、「もの」の名前に見当がつくと、それで「よく知った」気になってしまうという傾向も。でも、五感を使って深く触れ合わないで、本当にその「もの」を知ったことになるのでしょうか？



五感を働かす

自然の中でも、私たちは鳥や木の名前を教わると、それで「知っている」気になってしまいます。しかし、そのぬくもりや手触り、においや微妙な色合いなど、普段はあまりひらかれていない五感を意識して使うことで、自然はもっともっとその魅力を伝えてくれるのではないのでしょうか。

■雨の中、記念碑台近辺で自然物集め

激しい雨は降っているものの、記念碑台の近くなら多少外に出ることも可能だったので、自然のものを集めてくるワークを2つほど行いました。

探してきてほしいとお願いしたのは、各自葉っぱ1枚。さらに、グループに1個ずつ渡した卵ケースに、貼られたシールに該当するものを集めてくること。シールには、「ツルツル」「ゴツゴツ」「ふわふわ」「ねばねば」

「ころころ」など、ケースごとに異なる形容詞が書かれています。ほんの5~10分ほど外に出ただけで濡れという状態でしたが、皆さん様々なものを探してきてくださいました。



雨の記念碑台で木の葉探し



採集した木の葉を鑑賞

■葉っぱで素敵なスライドショー

まずは、取ってきた葉っぱを使ってのスライドショー。各自、自分の葉っぱをボール紙で作った枠に挟んで準備。これがスライドの1コマになります。光に透かしてみると、それぞれの美しさが際立ちます。これを合図に従って隣の人から回って来たスライドを順送りにしていきます。

一巡したところで感想を聞きました。一口に葉っぱといっても、実に多様な形があり、大きさがあり、色がある…手に持っていた時には茶色くてそろそろ朽ち果てようかという老いた葉っぱも、光に透かして見ると、そのレースのような葉脈のきれいなこと！普段とは違う見方をした時に、また新たな美しさを見せてくれる自然の奥深さを感じます。

■触感で集めたモノを当てっこ！

卵ケースに集めてきた自然物は、グループごとに交換して、シールに書かれていた形容詞を当てっこします。苦労して集めたものを触ったり眺めたりしながら、グループごとに楽しんでいる様子が見受けられました。もの自体の名前は知らなくても、「チクチクしたもの」「コ

ロコロしたもの」が自然の中にはいっぱいある！それと無邪気に触れ合うことの楽しさを十分味わっていただけたのではないかと思います。

2. 今日の体験から自然体験活動を考える

■「まちっ子の森」こんなふうに活かしたい

雨がよいよ激しくなってきたので、予定を繰り上げて午前中で切り上げることに。全員で輪になって、「まちっ子の森でどんなことをやれそうか？どんなことをやってみたいか？」を出し合っ、まとめて代えました。

高齢の参加者が大半だったこともあって、「孫と一緒に来て楽しめたらいいな」という方が多くおられました。自然に触れる機会の少ない今の子どもたちに、自然とかわり、その感触を味わってほしい、自然の中で思い切り遊ぶ体験をしてほしいという声が上がっていました。そのためには、いつ来ても案内してもらえ、何かができるという状態を作る必要があるのでは？という意見も。

3. 自然体験活動の意味と進め方

■フィールドワークの当初の予定

お天気がここまで崩れなければ、今回体験したいだいたいのワークをまちっ子の森の中でポイントを移動しながら行おうと考えていました。

①五感をひらく：まずは、比較的広いスペースのある尾根筋のベンチのあたりで、目をつぶって耳を澄ましたり、肌に感じる風や太陽の温度を感じたり、森のおいさを味わったり…普段は使わない感覚を意識してみる。その後、前述の「モノとの出会い」



まちっ子の森のひろば

のワークを土の上に座って行う予定でした。

②葉っぱのスライドショー：その後、各自で葉っぱを探しながら移動。奥の第2区画あたりで葉っぱのスライドショー。グループごとに卵ケースに自然物を集めていただいて、池の近くに降りて互いに当てっこ。という感じで、場所を移動しながら一連の流れでワークを重ねようと考えていました。

③「森人（もりんちゅ）」：さらに、これは愛知万博で考案されたものなのですが、モールドで作った「森人（もりんちゅ）」と名付けられた小さな人形を森の精に見立て、各自、1体ずつその森人が「いたいな」と思っている

お気に入りの場所に置き、その言いたいことを短冊に書いて一緒に置くというワークもする予定でした。全員が置いた後、それぞれの森人を訪ねて人形と短冊を見て回ることにしていました。最後に、他の人と離れた場所で一人になって、10～15分、森の中に座って過ごし、そこで感じたことを全員で分かち合って終了。こんな流れを考えていました。



木の上の「森人」

■「まちっ子の森」のこれから

意見交換では、唐突に「まちっ子の森」の活用方法を出し合っても表面的なものになるので、以下のようなことを順次考えながらディスカッションを重ねていこうと考えていました。

- ・自然とかわかることの良さって？
- ・日常の自分や人々の自然とのかかわりのありようは？
- ・自然とのかかわりが薄くなりがちの原因は？
- ・まちっ子の森を使ってどんなことができそう？
- してみたい？

まとめ（岩木さん、後日談）

■「まちっ子の森」活用の可能性

これからの「まちっ子の森」、いろいろな可能性があると思います。訪れた人が各自で取り組めるようにセルフプログラムやツールを用意しておけば、今回行ったような五感を使って楽しむことができます。今回参加された人たちが対応してサポートしてもいいかもしれません。仕切りのついた箱を用意しておいて、それにフィールドビンゴのように森のいろいろなものをコレクションするようにすれば、思い出として持ち帰ることもできます。

また、特にプログラムといったものでなくても、森の中で座って瞑想する、木陰で読書する、俳句をひねってみる…なんていうのも味わい深そう。高校の茶道部に手伝ってもらって、「森のお茶会」をしたり、保育園や幼稚園に呼びかけて自然体験をしてもらおう等、多様な組織との連携も探ってみる価値がありますね。そこに大学生がスタッフとしてかわかるというのも面白いかも。せっかく町の近くにある森なので、もっともっと多くの人が気軽に立ち寄れる場所にしていけるといいなあと思います。（原稿執筆）

事務局から

悪天で中止は初めてのことで。ご心配やご迷惑をおかけしましたが、貴重な経験を次に生かすつもりです。

◆参考・配布資料など

- ・自然体感の演習ツール各種
- ①五感をひらくウォーミングアップ用
- ②自然物を集める活動用
- ③視覚をはたらかせる演習用
- ・第15回市民セミナー報告書（岩木啓子講師）

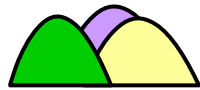
岩木 啓子：いわき けいこ
 ライフデザイン研究所FLAP代表
 電話：078-842-3637 FAX：078-842-3637
 E-mail：kei-iwaki@nyc.odn.ne.jp

◆参加者の声

- ・「五感」を信じて感動していきたいと思います。
- ・五感を使っでの自然との触れ合いは大変良かった。
- ・悪天のためにいろいろな人と交流できなくて残念。
- ・岩木先生の講演（つづき）を企画してください。

◆参加者：27名（50音順・敬称略）

天野 征一郎 伊谷 正弘 伊谷 幸子 岩井 和夫
 岩木 啓子 大上 政雄 大西 拓也 岡本 正美
 岡谷 恒雄 岡 敏明 川原 英美子 木村 富子
 熊谷 正一 黒田 美恵子 武内 宏 竹野 智明
 堂馬 英二 徳見 健一 中川 佐代子 中川 周平
 新葉 薫 原 三郎 平松 一 藤田 恵
 松岡 達郎 室津 敏子 中尾 啓子



索引

『六甲山物語4』には六甲山にまつわる多種多様な事実や話題が登場します。人名、地名、機関名、テーマ名、植物名、動物名、資料名など、解説を加えている343の用語を選んで掲載しました。また、巻末には第10回～12回の「六甲山魅力再発見市民セミナー」の年間プログラムも掲載していますので、併せてご参照ください

【あ】		崖崩れの対策	7	豪雨被害	6
アーカイブ写真館	11、12、13	花崗岩地	20	格子ダム	12
アイコウヤクタケ	28	傘	28	好日山荘	37、38、39
アイスロード	38	河川法	6	好日山荘の登山学校	38
アカマツ	9、19、20	ガッシャーブルムⅡ峰	38	神戸市シルバーカレッジ	21
アカマツ優占区	20	加藤 智二 かとう ともし	37、39	神戸市文書館	12
アケビ	26	カブスカウト	34、35	神戸地域ビジョン委員会	16
アシナガタケの仲間	27	カラビナ	39	神戸都市問題研究所	5、16
東 充 あずま みつる	11	夏緑高林型	21、22	合弁花	25
アセビ	19、21、24、25	変わったきのこ	28	広葉樹林	15
アセビ伐採調査	2、18	カワラタケ(瓦茸)	27、29	五感	40、41
油コブシ	38	観光レクリエーション	6	五感をひらく	42
アミガサタケ	29	神呪寺八十八個所の礼拝所	13	国立公園法	7
アリマウマノスズクサ	31、39			五助堰堤	7
アンノーンスカウト	36	【き】		五助断層	6
		キクラゲ(木耳)	28	小館 誓治 こだて せいじ	18、20
【い】		寄生菌	28	コックバネウツギ	19、25
イッポンシメジ	27	キツネタケの仲間	27	コナラ	9、19、25
イヌツゲ	19	キヌガサタケ	29	コバノガマズミ	26
イベント清掃びかびか隊	5	きのことは?	28	コバノミツバツツジ	18、19、25
岩木 啓子 いわき けいこ	40	きのこの生育	27	コブシ	25
岩	12	きのこの中毒症状	29	コンクリートの擁壁	7
		きのこの本体	28、29	コンクリート砕工	7
【う】		きのこの迷信	29		
『雨奇晴好』 うきせいこう	32	キブシ	26	【さ】	
ウグイスカグラ	25、26	キャノンボールラン	33	サクラタケ	27
ウラグロニガイグチ	27	救急用具	39	ササの地下茎	18
ウリカエデ	26	急傾斜法	7	里山	21、29
ウワミズザクラ	25	御衣黄桜(ぎょいこうさくら)	24	里山和楽会	21、22、23
		居留地	6	里山和楽会の活動～地域とともに	21
【え】		近畿自然歩道	18、27	砂防事業	5、6
柄(え)	28	近郊緑地法	7	砂防ダム	5、7、15
エノキダケ	29	菌根菌	27、28、31	砂防ダムの効果	7
エベレスト	38	菌糸	28、29	砂防法	6、7、15
堰堤建設	15	近代登山発祥の地	37	サルノコシカケ	28
				山岳寺院	6
【お】		【く】		山岳修行	6
大月断層	6	クスノキ科	25	三角点	11、12
大阪城築城	6	クモタケ	29	サンコタケ	29
オオバヤシャブシ	26	グランドデザイン	21、22	山頂	11、12
おきて(8つのおきて)	34、36	グリーンベルト	7、16	山頂の写真	13
沖村 孝 おきむら たかし	5、7	クロタケ	29		
奥田 彩子 おくだ あやこ	27、29	クロチチタケ	27	【し】	
長 八州翁 おさ やすお	34、36	クロモジ	18、19、24、25	シイタケ	29
雄蕊(おしべ)	25			自然公園法	15
		【け】		自然体感のワーク	40
【か】		検土杖 けんどじょう	18、19	自然体験活動の価値と可能性を考えよう!	40
概観図	22	減災	5、7	自然物集め	41
皆伐	14、15、20			実験キャンプ	34、36
カエデ	26	【こ】		シハイスミレ	19
かがやき神戸	21、22、23	コアジサイ	19、31、34	シメジ	29
かがやきの森	21、22	孔開型	25		

斜面土砂災害対策	7	『地質百選』	38	布引貯水池	6
樹木のミニ図鑑	23	地図	11、12、31、37	ヌルデ優占区	20
集中豪雨	6	チチアワタケ	27		
私有地	9、15、16	茶屋	31、32、33	【ね】	
私有林	14、15	チャワンタケ類	29	ネッカチーフ	35
ジョージ5世の戴冠式	36	チョー・オユウ	38		
植生調査	21、22	調査枠	22	【は】	
シルバーカレッジ	21、22			ハードウェア対策	7
人工林の間伐	15	【つ】		ハイドレーション	37、39
震災復興	11、12	ツガサルノコシカケ (桐猿腰掛)	29	ハチ	25
神社	12	ツクバネウツギ	25	葉っぱのスライドショー	42
森林整備	14、15	ツチグリ (土栗)	29	服部 保 はっとり たもつ	9、21
森林整備の担い手	15	ツツジ	19、25	ハテナ?から誕生した六甲連山バイブル	11
森林法	6、7、15	つば	28	春の六甲で木の花を見てみよう	24
森林保全	14、15、16	ツバキ科	26	パワースポット	31、32
		つば	28	阪神淡路大震災	7、38
【す】		【て】		【ひ】	
スイカズラ科	26	テングタケの仲間	28	ビーバースカウト	35
水道筋チンタ本店	33			ビオネスト (堆肥)	23
スカウト章	35	【と】		ヒサカキ	26
『スカウティング・フォア・ボーイズ』	34、36	ドウダンツツジ	19	ひだ	28
ストーンガード	7	同定のポイント	28	ヒトクチタケ	27、29
スノキ	19	冬虫夏草 (とうちゅうかそう)	28、29	人と自然の博物館	8、18、21、24
スプリング・エフェメラル	24	道満 俊徳 どうまん としのり	21、23	避難勧告	5、7
須磨断層	6	特別保護地域	7	避難訓練	7
スマレ	18、24	特別保全緑地法	7	避難行動	5、7
スライドショー	41、42	登山道の地図	12	ヒマラヤ登山	37
スリット型の堰堤	7	土色帳 どしきちょう	18、19	『百万人の山と自然講座・登山基礎』	37、38
スリットダム	12	都市計画法	7	ヒューマンウェア対策	7
諏訪山断層	6	『都市政策』	16	兵庫きのこ研究会	27
		都市山	8、10、14、15、16	兵庫県砂防課	7
【せ】		都市緑地法・近畿圏整備法	7、15	ヒラタケ	29
世界ジャンボリー	35	土砂崩れ	41		
世界スカウト委員会	35	土砂災害	5、6	【ふ】	
世界スカウト会議	35	土砂災害警戒情報	7	風致地区	7
世界スカウト機構	35	土砂流出	6	腐生菌	28
全山縦走	11、12、13、33、35	トリュフ類	28	二つ池	24、31、34
扇状地伏流水	6	トレイルラン	33	再度山	6、9、20、27、29
		トレッキングポール	39	ブナシメジ	29
【そ】				ブロックダイヤグラム	5、6
早春の六甲山の森	18、19	【な】		プロジェクト・アイデア	15、16
草本種優占区	20	ナイトウォーク	32	ふれあい祭り	23
袖群落 そでぐんらく	19	ナガバモミジイチゴ	19		
ソフトウェア対策	5、7	中村 圭志 なかむら けいし	31、33	【へ】	
ソメイヨシノ	25	ナメコ	29	ベーデン-パウエル (BP)	34、35、36
ソヨゴ	19	ナラタケ	29	ヘッドランプ	39
				ベニタケの仲間	27、29
【た】		【に】		ベレー帽	35
堆肥	21、23	ニガイチゴ	19	ベンチャースカウト	35
ダウンジャケット	39	ニガイチゴ優占区	20		
高橋 晃 たかはし あきら	24、26	西岡 一男	39	【ほ】	
滝	12	ニッケイタケ	27	ボーイスカウト	32、34、35
宅地等規制法	7	日本の茶道	36	ボーイスカウト運動	34、36
ダム	12	日本山岳ガイド協会	37、38	ボーイスカウト活動の概要	35
タムシバ	24、25	『日本の地形と地質』	38	ボーイスカウトグッズ	34
タンナサワフタギ	19	日本プロガイド協会	38	ボーイスカウトの歴史	34
		認定ガイド	39	防災空間緩衝緑地	7
【ち】		【ぬ】		孢子	28
ちかい (3つのちかい)	36			ホコリタケ類	28、29
地形図	6、21、22				
チゴユリ	19				

ホンシメジ	29	六甲砂防事務所	7
【ま】		六甲山回遊構想	15
マイタケ	29	六甲山があつてよかったね	37
毎日登山	10、33、38	六甲山カフェ	33
まちっ子の森	10、18、19、20、24、27、 31、33、34、40、 41、42	六甲山環境整備協議会	14、24
マツ	29	六甲山自然保護センター	18、24
マツオウジ（松旺子）	29	六甲山小学校	32
松岡 達郎 まつおか たつお	14、16	六甲山上でキノコを調べる	27
マツボックリ	26	六甲山森林整備戦略	10、11、14、15
マリア・モンテッソーリ	36	六甲山整備室	14
マント群落	19	六甲山頂・森と歴史の散歩道	24
【み】		六甲山における都市化の進行と土砂災害	5
御影高校	29	六甲山の植林	6
ミツバツツジ	25	六甲山の森林植生と土壌	18
みどりの聖域	15	『六甲山』山と溪谷社発行	32
ミヤコザサ	19	『六甲山物語』	13
ミヤマウグイスカグラ	26	六甲山パートナーシップの実現に向けて	14
【め】		六甲山ホテル	24
雌蕊（めしべ）	25	六甲山を緑にする会	35
【も】		六甲全山縦走大会	35
モリアオガエル	31、34	六甲の景観	13
森人（もりんちゅ）	42	六甲の登山道	13
森と歴史の散歩道	14、27	六甲摩耶活性化プロジェクト	16
モルタル吹き付	7	六甲連山バイブル	11、13
【や】		六甲連山バイブル（登山編）	13
野外活動による青少年教育	34		
ヤグラタケ	29		
ヤマウグイスカグラ	26		
山ガール	32		
山カフェプロジェクト	31、33		
ヤマケイ関西『六甲山』	31		
ヤマザクラ	19、25		
山里の風景	32		
ヤマツツジ	19		
山の手入れ	14、16		
ヤンマタケ	29		
【よ】			
鎧積みダム	12		
【り】			
リーフ・スライド	40		
離弁花	25		
リョウブ	19		
林床整備	21、23		
【る】			
るるぶ六甲山	32、33		
【れ】			
レインウェア	39		
【ろ】			
ローバースカウト	35		



市民セミナープログラム

平成24年度 六甲山魅力再発見市民セミナー(2012年4月～10月)

開催	テーマ	講師	ページ
第109回(4月)	早春の六甲山の森	小館 誓治 (兵庫県立人と自然の博物館 研究員)	18
第110回(6月)	ひとの集う場所(とこ)六甲山	中村 圭志 (『るるぶ六甲山』 創刊ディレクター)	31
第111回(8月)	六甲山における都市化の進行と土砂災害	沖村 孝 (財団法人建設工学研究所 常務理事)	5
第112回(10月)	里山和楽会の活動～地域とともに	道満 俊徳 (里山和楽会 代表)	21

平成25年度 六甲山魅力再発見市民セミナー(2013年4月～10月)

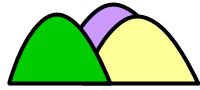
第113回(4月)	春の六甲山で木の花を見てみよう	高橋 晃 (兵庫県立人と自然の博物館 研究部長)	24
第114回(6月)	ボーイスカウトの歴史	長 八州男 (日本ボーイスカウト兵庫連盟 副理事長)	34
第115回(8月)	国立公園六甲山地区の特色とこれから	戸田 耿介 (NPO 法人こども環境活動支援協会 監事)	8
第116回(10月)	六甲山があってよかったね	加藤 智二 (山岳ガイド、株式会社好日山荘)	37

平成26年度 六甲山魅力再発見市民セミナー(2014年4月～10月)

第117回(4月)	ハテナ?から誕生した六甲連山パイブル	東 充 (神戸アーカイブ写真館 代表)	11
第118回(6月)	六甲山上でキノコを調べる	奥田 彩子 (兵庫県キノコ研究会)	27
第119回(8月)	自然体験活動の価値と可能性を考えよう!	岩木 啓子 (ライフデザイン研究所LAP 代表)	40
第120回(10月)	六甲山パートナーシップの実現に向けて	松岡 達郎 (神戸市 六甲山整備室長)	14



年度毎の「六甲山魅力再発見ガイド」も発刊



編集後記

『六甲山物語4』を発刊することができました。さらに、CD-R版の制作も進めています。『六甲山物語1・2・3』、『六甲山辞典・総集編』CD-R版を併せると、「六甲山・郷土誌」として活用していただける知的産物を保有することになります。これらの産物と運営のノウハウ等を紹介したいと考えています。

「六甲山魅力再発見市民セミナー」は平成24年度から、4月・6月8月・10月の年間4回、午前中は県立自然保護センター周辺の散策と組み合わせた新シリーズとして開催しています。延べ12年間で合計120話を重ねて、講師116名・参加者総数3,260名で1回平均26.7名になります。

『六甲山物4』は、平成24年度第10期～平成26年度第12期の12回の報告書を再編集したものです。『六甲山物語1・2・3』の6つのジャンルを基にして、テーマを広げたり深めたりしました。平成24年度は「都市災害」や「森づくり」を取り上げ、平成25年度は、「国立公園」に焦点を当てました。平成26年度では「六甲山パートナーシップ」という今後の方向性に着目しました。また、3年を通じて、「まちっ子」の自然を探勝したのも特徴です。

120回の「六甲山魅力再発見市民セミナー」を終えて、『六甲山物語4』を刊行することができたのは、予想を大きく越えた出来事です。講師の皆さん、参加者の皆さん、多くの協力者・運営スタッフの皆さんのご理解とご支援に、改めてお礼を申し上げます。そして、このような産物や成果を多くの人たち、後世を託す若者達にも伝えることを課題だと考えています。

平成25年2月

『六甲山物語4』編集委員会

ご支援いただいた機関・団体の皆さま

「六甲山魅力再発見市民セミナー」の開催と報告書の発刊、および関連行事等
に関しは、多くの皆さまからご支援をいただきました。改めてお礼を申し上げます。

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：環境省近畿地方環境事務所、兵庫県神戸県民センター、神戸市教育委員会、灘区役所、

助成：イオン環境財団、(財)大阪コミュニティ財団（東洋ゴムグループ環境保護基金）、花王・みんなの森づくり活動助成、公益信託自然保護ボランティアファンド、コープこうべ環境保護基金、セブン-イレブン記念財団、阪急阪神 未来のゆめ・まち基金助成、兵庫県緑化推進協会

委託：兵庫県神戸県民センター (順不同)

市民セミナーの会場として県立六甲山自然保護センターを利用させていただき、神戸県民センターのお世話になりました。

このたびの『六甲山物語4』の発行は、(財)大阪コミュニティ財団（東洋ゴムグループ環境保護基金）の助成金を活用させていただきました。また、株式会社ワークスタイル研究所には編集・制作でご協力いただきました。

「六甲山物語4」

六甲山をさらに知る 12話

平成24～26年度「六甲山魅力再発見市民セミナー」総集編

発行日：2015年2月25日

編集制作：六甲山を活用する会

制作協力：株式会社ワークスタイル研究所

印刷製本：株式会社プリントネット